



津市一身田町 2843
高田中・高等学校内
樹心同窓会事務局
電話 059-232-2442



ご挨拶

同窓会会長
志田 行弘

古いインドに人生を四つの時期に分ける考えが合ったそうです。学生期、家住期、林住期、そして遊行期。五木寛之著「百寺巡礼」十巻の初巻・巻頭で知りました。学生期とは言ってもなく、若人が様々なことを学んで経験を積む時期、つまり高田学苑の生徒・学生諸君が文武両道の勉学に励むことでしょう。家住期は社会に出て一家をかまへ、実社会の一員として仕事に打ち込む実践の時期で人生の一番重要な時かも知れません。次の林住期とは生きる為の仕事から引退して自由に



ご挨拶

学苑長
梅林 久高

同窓の皆様方におかれましてはご健勝でお過ごしのこととお慶び申し上げます。皆様が県内外の種々な分野で活躍、精励されてみえることを見聞しますこと大変嬉しく思っています。

今年度より永年当会の興隆発展のためご尽力を頂きました伊藤清一会長が勇退されました。新会長に三重テレビ放送元社長の志田行弘様が就任され、副会長に乙部満生様、倉田栄治様、新

なり、人生とは何かを考えるゆとりの時期。読書や思索に耽ったり、趣味に生きたり、自分の一生をふり返り、人間にとって何が大切かを考えてみると、大学の聴講生になったり、各種文化講座に学ぶ中高年層もおられます。最後の遊行期は文字通り、家を離れて放浪の旅に出たり、人生の締めくくりをゆつたりと過ごす時を指すのでしょうか。五木氏は、今は昔と違ってこの四つの時期が、順序を違えたり戻ったりもするし、きちんと分けて生きるのが難しいとも、又、林住期の時代が、人間として最も充実した季節の様に感じることもあると記してみえます。私はいずれにしろ人生において大方の人たちはこの四つの期を歩んでいく様な気がします。樹心同窓会の皆様方は、それぞれ、どの辺りを歩んでいらっしゃるのでしょうか。

事務局長に山田教尚氏が新たに就任。新会長のもと同窓生五万七千名余りを越える当会をより活性化され、縦横の絆を深め、母校を懐慕され、互いの輪がより広がることに喜んでいきます。学苑と共に協力して運営に当って行きますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。

中高では福山茂校長のもと箕田昭子教頭、堀元宣教頭として新教頭に伊藤文貴先生が就任されスタートしました。学苑の現状等については短大校長、中高の校長よりの報告をご高覧くださいば幸いです。喫緊の課題等について思慮していますことを少し述べさせていただきます。

不可避で加速的に進む少子化の影響

さてこの度、伊藤清一樹心同窓会前会長のご推挙と運営委員会にて、私が高田教尚氏が担うことになりました。私は昭和三十四年から同四十年まで生徒としてお世話になり文武両道共に不出来でしたが、次の学生時代はそこそこの意義に過ごしながらも、一年間程は学園闘争最中で学業もままならぬ時期に遭遇した時代でした。

同四十五年、社会へ出てからは高田学苑で学んだ仏教の教えを生かされたいかとは不明ですが、仕事に関しては常に自信を持って、団塊世代の猛烈社員としてやり通したと思っています。この経験が同窓会活動に少しでも生かせればと考えております。

不慣れですが、役員諸氏のお力を借りて愚直に前例を踏まえつつ、少しでも学苑と同窓会発展の為に精進したいと思ひます。ご支援とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

高田学苑は皆さんも存知の通り、江戸時代は千七百年代の中期に真宗高田派本山修善寺の僧侶養成高等機関である勸学院から発しています。明治五年以降は一般の子弟も学べる普通学校となり、この年を開校記念の年として百五十年余の古きを誇っています。

とその対策です。今年の在學生は全体で昨年度より六十名余り減少したものの中高合計六十一クラス、生徒数二千二百九十一名。男女比はほぼイーブンで男子が六十名余程多い状況です。そして教職員は二百二十四名（非常勤職員、クラブ外部指導員含）が勤務しています。

また、短大においては、全国的に四大志向が強まり、多くの短大が募集停止に追い込まれています。本学も子ども学科、介護福祉コースは充足に苦戦しています。これらのコースは現代社会の抱える状況の中で必須である重要な職業領域です。メディアによるネガティブな発信によりさらに希望者が減少しており、もはやその解消対策は一

昭和初年、高田中学校及び高等科を高田専門学校とし、戦後、学校法人高田学苑となり中学三年制コースと高校、そして中高一貫教育の六年制コースの新設、更に高田短期大学の設立と歩みを進め現在に至っています。

それ故に旧制専門学校、新制中学と高校、中高六年制と短大の五つにそれぞれ卒業生がおられますが、総て高田学苑樹心同窓会の仲間です。

これまで津には五万七千名余りの同窓生が一同に会することもなく、毎年八月の第一日曜日に高田学苑の大教室なり、津駅のホテルで二百人程の総会を開催してきました。そんなこともあり東京・大阪或いは各学年・クラスごとの会合もいくつか開催のようですが、今年はともかく来年度あたりからもう少し多人数の樹心同窓会総会にしたいものと考えております。

高田学苑は県内屈指の文化・芸術・スポーツそして進学校として誇るべき地歩を固めておりますが、日本の迫り来る課題である人口少子化の進行があります。そのことについては「高田学苑は中高・短大ともに社会情勢と状況に合わせるのではなく、あくまで現状の規模にこだわって、それを維持しさらに成長していくことを第一に考えては

短大の課題にとどまらず国家的レベルでの問題になっているとも痛感しています。また四大も含めて文科省は、定員募集が充足していない大学には補助金をカットする方向を打ち出しており、速効的に充足率をいかなる対策アイデアにより可能にしていけるべきか検討中であります。

教育界のホットなニュースとして国に於いて二十六年より高校生への就学支援金制度が私立高校生にも適用され、全国的平均の四十五万七千円を上限に一律支給されることが決定。勿論二十五年より公立は完全無償化がなされています。今回の支給は保護者の授業料負担軽減に大きな支援となりますが、公立との格差はまだまだ大きな

しい・・・」旨を前理事長・学苑長の高臣文祥先生が退任のご挨拶で喝破されていますが、正にその通りです。

人類の歴史を見れば、国家の存亡も組織の盛衰も同様で質もさることながら、量も大切に質量共に重要な発展維持の要素だと思ひます。

梅林久高学苑長ご指導のもと、魅力と特色ある選ばれる学校への取り組みを、同窓生一同が応援しなければならぬことは論を待ちません。

幸いにして、高田学苑の生徒諸君は、学業、課外活動、諸行事総てにおいて県内外、全国的にも或は海外飛躍に於いても、文武両道共に極めて高位の活躍振りで、担当指導の先生方、生徒各位の努力精進には輝かしいものがあります。この素晴らしい業績を、樹心同窓会が一致団結して世間一般に広く知らしめ、尚、新聞、テレビ、ラジオ、インターネット等マスコミに向けて、種々の強力な発信を続け、母校高田学苑の発展に寄与すべく応援する体制も一層強化したいと考えております。樹心同窓会会員一人一人がこの精神を共有したいもの、何とぞご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

開きがあります。この制度によって私立に生徒が流れ公立離れの傾向も鮮明になるとの声もあります。三重県のような地域や官尊民卑の意識の強い地方では大きな振動になるか不明です。

いずれにしても時代の激しい変化に惑わされることなく、建学の精神である仏教の教え、親鸞聖人の教えをしつかりと土台にして、質の高い知育と豊かな情操、感性を兼ね備えた人格の形成に全教職員一致団結して参ります。そして、選ばれた学苑、魅力溢れる学苑作りをめざしますので一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

八月三日（日）の同窓会総会懇親会でお会いできることを楽しみにしています。



ご挨拶

中高校長
福山 茂

同窓の皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。日頃より本校の教育活動に対し、温かいご支援とご理解を賜り、心より御礼申し上げます。ここに本校の近況をご報告させていただきます。

令和七年三月、高田本山常磐井法主親下をはじめ、保護者会会長の小島しおり様ならびに役員の皆様のご臨席のもと、令和六年度卒業式を挙行いたしました。昨年度の卒業生は、三年制三九三名、六年制一八三名、あわせて五七六名。皆、誇りを胸に新たな道へと歩みを進めました。

進学実績においても、生徒たちの努力が実を結びました。三年制では現役で三七名が国立公立大学に合格し、そのうちⅡ類特別選抜コースからは三四名が合格、合格率は五九%と大変高い成果を収めました。三年制全



ご挨拶

短大学長
清水谷正尊

樹心同窓会会員の皆様には、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。また日頃は本学の教育にご協力、ご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

体として、三重大大学には一二名、滋賀大学に三名、三重県立看護大学に二名と、いずれも現役での合格です。六年制においては現役で七五名が国立公立大学に合格し、難関十大学へは二三名、さらに医学部医学科には二一名が合格。そのうち一四名が三重大学医学部医学科に進学するなど、大きな成果を挙げました。

令和七年度の入学者も確定いたしました。高校ではⅠ類進学六クラス、二一六名、Ⅱ類進学三クラス九三名、Ⅱ類特別選抜一クラス三五名の計三四四名が、また中学校には五クラス一八七名が入学し、新たな仲間を迎えることができました。さまざまな個性や経験を持つ生徒たちが、本校での学びを通して成長していくことを願っております。

部活動においても、生徒たちは目覚ましい活躍を見せております。特に新体操部の山本響士朗さんは、令和六年度全国高等学校総合体育大会および第四〇回全国高等学校新体操選抜大会において男子個人総合優勝という快挙を成し遂げました。顧問の堀孝輔先生も第七七回全日本新体

この四月三十日に新入生研修を行いました。これまでは子ども学科とキャリア育成学科に分かれて別々の場所で行っていましたが、本年度は両学科とも日硝ハイウエアリーナ（サオリーナ）で行い、午前中は学科の枠を超えて、新入生全員でコミュニケーションゲームなどを楽しみました。笑顔あふれるひとときを通して、新入生同士はもちろん、教

操選手権大会で優勝され、師弟ともに全国の頂点に立ちました。

また演劇部は、令和六年度第七〇回全国高等学校演劇大会（岐阜大会）において優良賞を受賞し、さらに令和七年度も中部日本高等学校演劇大会で最優秀賞および全国高等学校演劇協議会長賞を受賞、二年連続の全国大会出場を決めました。これは中部日本ブロックとして初の快挙です。その他にも、なぎなた部・柔道部・馬術部・卓球部・陸上競技部・文芸部・放送部・書道部・科学部電気班・将棋部・囲碁同好会など、多くの部活動が全国大会への出場を果たし、生徒たちのひたむきな努力と情熱が実を結んでいます。

こうした課外活動に加え、体育祭や文化祭、校外宿泊学習といった学校行事も大いに盛り上がりを見せました。生徒たちは、仲間との絆を深めながら、笑顔と感動に満ちた時間を共有し、心豊かな学校生活を送っています。

近年、文部科学省が重視する「探究的な学び」は、変化の激しい社会において必要とされる「課題発見・

解決力」や「他者と協働しながら新たな価値を生み出す力」の育成をめざすものです。本校ではこの考え方を教育の根幹に据え、知識の習得だけにとどまらず、「なぜだろう」「どうしてこうなるのか」といった問いから始まる学びを大切にしています。

本校は、文部科学省からスーパーサイエンスハイスクール（SSH）の指定を受けており、科学的思考力・探究力の育成を目的とした先進的な教育を展開しています。大学や研究機関と連携した実験実習、国内外のフィールドワーク、英語によるポスター発表など、生徒が主体的に課題に取り組み、科学的な視点で社会と向き合う姿勢を養っています。また、ユネスコスクールとして、持続可能な社会づくりに資する人材育成をめざし、SDGsをテーマにした探究活動にも積極的に取り組んでいます。自然環境、地域文化、ジェンダーや平和といった幅広い分野を題材に、互いの意見を尊重しながら対話を重ね、深い学びへとつなげています。

グローバル人材の育成にも力を入れており、英語教育改革として英語

地域の信頼を得てくださっているおかげであり、深く感謝申し上げます。

また、公務員試験合格も昨年同様好調でした。子ども学科から二一名が公務員（保育士・幼稚園教諭職）に合格し、オフィスワークコースから三名、介護福祉コースから一名が公務員に合格しました。公務員対策講座を開講するなど公務員試験合格に力を入れてきた本学の成果が現れ

四技能のバランスを重視しつつ、五名のALITによる授業や「ステディサブリENGLEISH」、さらに令和七年度からは「すらら」も導入。中学でもオンライン英会話やチーム留学を実施し、生きた英語力と異文化理解を育てています。

さらに、ICT教育の分野では中学・高校一年生から全員にiPadを配布し、個別最適な学びと協働的な学びの充実を図っています。WiFi環境やICT教室の整備とともに、リフレクションやポートフォリオの電子化など、「学びの見える化」も進めております。

今後も「学びを止めない学校」として、生徒一人ひとりが自己の可能性を最大限に発揮できる環境づくりに努めてまいります。卒業生の皆様には、これからも母校の歩みに温かく寄り添っていただきますよう、お願い申し上げます。

末筆ながら、皆様のご健勝とご多幸を心よりお念じ申し上げます。



ていることを嬉しく思います。

本年度は、子ども学科一三一名、キャリア育成学科オフィスワークコース六十三名、キャリア育成学科介護福祉コース三三名、合計二二七名の新入生を迎えてのスタートとなりました。昨年度は、新たに白山高等学校と四日市農芸高等学校の二校と高大教育交流協定を締結し、またオープンキャンパスを一回増やし

樹心同窓会協力金にご賛同いただいた会員の皆様

令和 6 年度

卒業年度順 (敬称略)

令和 7 年 3 月 31 日現在

伊 藤 清 一 (高校 S28)	岸 岡 富紀子 (高校 S58)
藪 谷 為 雄 (高校 S37)	大 鐘 美 保 (高校 H5)
志 田 行 弘 (高校 S40)	大 竹 聡 史 (中 6 H5)
前 川 伸 一 (高校 S42)	門 間 文 彦 (中 6 H5)
安 井 敏 明 (高校 S44)	金 兄 誠 之 (中 6 H5)
今 井 秀 樹 (中 3 S45)	中 山 聡 (高校 H5)
北 端 一 子 (短大 S45)	山 際 克 弥 (高校 H5)
鈴 村 豊 嗣 (中 3 S45)	山 本 崇 喜 (高校 H5)
中 川 哲 夫 (中 3 S45)	金 澤 多恵子 (短大 H7)
長 井 優 (中 3 S45)	石 崎 旭 (中 6 H9)
日 置 雅 久 (中 3 S45)	溝 口 亮 (高校 H15)
松 田 英 明 (中 6 S45)	坂 本 直 樹 (高校 H15)
今 井 典 子 (中 3 S48)	大 江 健 吾 (中 6 H21)
平 松 政 弘 (高校 S48)	井 川 太 郎 (高校 H25)
城 田 裕 子 (短大 S50)	上久保 賢 (中 6 H25)
鷺 尾 尚 史 (中 3 S50)	船 木 泉
田 村 昭 裕 (中 3 S55)	ゴルフ愛好会
笠 原 賢 二 (高校 S58)	

●ご協力いただき誠にありがとうございます●

協 賛 企 業 一 覧

(五十音順)

令和 7 年 6 月 10 日現在

名 称	名 称
愛 知 (株)	(株)東海フォトデザインシステム
ア イ ン ズ (株)	東邦ガスエナジーエンジニアリング(株)
青 木 文 具 (有)	笑 旨 から あ げ 富 や X X
(株)アサプリー三重支社	(株) ト ン ボ
荒 川 制 服 (株)	ス ー パ ー ニ シ イ
伊 藤 印 刷 (株)	(株) 西 出
津 伊 藤 販 売 店	日 本 土 建 (株)
(株)SDコンサルティング	(株)白揚ブックセンター
M A グ ル ー プ	写 真 の は せ
岡 三 証 券 (株)	長 谷 川 体 育 施 設 (株)
岡 写 真 館	(有) 樋 口 商 店
オ ー ク ト リ ー (株)	(株) 百 五 銀 行
(株)カ ン キ ョ ー	富士フィルムビジネスイノベーションジャパン(株)
近畿日本ツーリスト(株)津支店	藤 原 工 業 (株)
(株)鴻 池 組	(株)武 道 東 海
(株)コージンカンパニー	ブ リ ク ス ト ン
三 十 三 銀 行	(有) 平 治 煎 餅 本 店
三 和 書 店	別 所 書 店
(株)システムテクノ	(有)ヘルシーファミリー
杉 新 衣 装 店	ホテルグリーンパーク
NPO法人鈴鹿市馬術協会	本 の 王 国
セ コ ム 三 重 (株)	三重交通(株)中勢旅行支店
(株)Z T V	三 重 テ レ ビ 放 送
瀧 本 (株)	三重トヨタ自動車(株)津桜橋店
千 巻 印 刷 産 業 (株)	ミ フ ジ (株)
(株)中部都市建築設計事務所	ミ ヤ タ ス ポ ー ツ
長永スポーツ工業(株)三重支店	リ コ ー ジャ パ ン (株)
(株)津ドライビングスクール	(株) 有 宣 企 画
(株)辻 工 務 店	ヨ シ ダ 運 動 具 店
(株)T & Y フ ー ズ	(株) ラ イ フ プ ラ ン
東 海 土 建 (株)	

て年に七回開催するなど、募集活動を強化してきたにもかかわらず、特に子ども学科で募集に苦戦することになったのは、保育者を目指す高校生の減少にあると考えられます。しかし保育の現場ではこれまで同様、保育者不足が叫ばれています。保育者不足のために安心して子育てができる環境を維持できなくなってしまう、県外流出などによって三重県の人口減少を加速させることになってしまいうでしょう。つまり、これは一学校法人の問題ではなく、三重県や各市町と協力し解決すべき課題といえます。したがって今後は、各市町や保育現場とより一層連携を強化して、三重県内における保育者不足

の解消という共通の課題に取り組んでまいりたいと考えています。また、本学では委託訓練生を受け入れています。新入生では子ども学科に九名、介護福祉コースに四名が委託訓練生として入学しました。委託訓練とは、国からの委託を受け、社会人等を対象に、原則受講料無料で、就職に必要な知識・技能を習得できる職業訓練のことです。本学では子ども学科で「保育士」、介護福祉コースで「介護福祉士」の資格を取得することができま。近年、学び直しや資格取得のために入学される方が増えている状況です。三重県でも現在、一人ひとりが安心して働ける健全な社会の実現に向けて、リ

カレント教育が推進されています。三重県全体でリカレント教育を推進する「リカレント教育プラットフォームみえ」主催イベントとして、昨年十月二十八日に私も松阪市で本学のリカレント教育について、この委託訓練生の制度や高田短期大学コミュニティカレッジなどをお話しさせていただきました。高田短期大学コミュニティカレッジとは、本学が地域の方々を主な対象として開催している各種講座のことで、無料で受講することができま。どのような講座があるかについては本学HPからご覧いただけますので、興味のある方はぜひご覧いただき、ご活用ください。地域の方々の自己研鑽や生

涯学習に役立てていただければ幸いです。現在本学では、社会人である委託訓練生やネパールを中心とした留学生など、多様な学生が在籍しています。また持病をかかえた学生や、発達に特性のある学生も増えています。そこで昨年度より学生相談室に臨床心理士を常勤で配置しましたが、今年度はさらに一名スタッフを増員して、配慮が必要な学生には迅速に対応し、また支援を要する学生だけでなく多様な学生が相談しやすい環境を整えています。どんな学生でも平等にその人らしく学べる大学こそ、やわらか心を教育の理念とする本学の目指すところだと思っています。

また、例年ご紹介させていただいていますが、津市のふるさと納税の寄付先に本学を指定できます。昨年度は、津ふるさと津かがやき寄附私立学校応援交付金として二十万九千円の交付があり、「たかたんフォレストのびのびひろば」に設置したフェンスの費用の一部に充当させていただきました。このように学生の教育研究および教育環境の充実などに充てさせていただきますので、こちらの方もぜひご助力いただきますよう、お願い申し上げます。

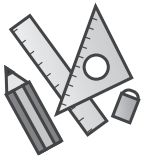


新任教職員紹介

- 一、氏名
二、担当教科・部署
三、趣味・特技
四、着任のことは

中・高等学校

- 一、山岸 望
二、技術・中学三年生副担任
三、ゴルフ
四、本年度より高田学苑でお世話になっております。周囲の先生方に温かく迎えていただき、深く感謝するとともに微力ながら精一杯努めてまいりたいと思います。
- 中学一年生と中学三年生の技術を担当しています。公立中学校で四十一年間教えてきましたが、環境も大きく変わり、戸惑うこともあります。しかし、日々の取り組みの中で、少しでも技術教育の楽しさを感じていただけるよう、生徒の皆さんとともに頑張っていきたいと思っています。
- 至らない点も多く、ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、ご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い致します。



- 一、箕田 健人
二、国語・高校1年生担任
三、お寺巡り・ボクシング観戦・読書
四、本年度より母校の高田学苑でお

世話になっております。周囲の先生方には温かく迎えていただき、心より感謝申し上げます。

母校で教壇に立てることを大変嬉しく思う一方、かつての恩師である先生方と勤務させていただくことに、身の引き締まる思いがいたします。また、生徒の皆さんは、元気で素直、かつ真面目に勉強や部活動に日々励んでいます。そんな皆さんに向き合っていくために、私自身ももっと精進しなければなりません。強く思っております。

至らぬ点も多々あり、ご迷惑をおかけすることもあるかと存じますが、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

一、麻田 理央菜

二、高校1年生副担任

三、旅行・博物館へ行くこと

四、ご縁あって、本年度より高田中・高等学校でお世話になっております。周囲の先生方の温かいご指導・ご鞭撻のおかげで、日々成長とやりがいを感じております。

教科は国語で、中学二年生と高校1年生を担当しています。部活動は演劇部の顧問を務めております。

生徒の皆さんが、それぞれの目標や夢に向かってひたむきに努力する姿を教科指導や部活指導などを通してサポートし、伴走できる存在でありたいと思います。

そのために、今何が求められて

いるのかを考え模索しながら、生徒の皆さんと共に成長していきたいと考えています。

どうぞよろしくお願い致します。

一、石川 怜

二、数学・中学一年生副担任

三、バスケット、旅行、音楽を聴くこと

四、本年度より、高田中・高等学校でお世話になっております。科目は数学で、中学一年生の副担任を担当しております。

母校である高田学苑で教鞭を執ることは学生時代からの憧れであり、目標とされていることであります。今教員として生徒の成長に携われていることをとても嬉しく思うとともに、自分の至らなさを痛感する日々であります。多くの先生方に助けていただいていることに感謝し、ご指導いただいたことを必ず自分のものにできるよう努めて参ります。

この学校で過ごした中高の六年間を思い返すと、とても恵まれた環境の中で日々成長の機会をいただいていたのだなと感じます。これからは教員の立場として、生徒の学ぶ環境を維持する、さらにはより良いものにしていく一助となるよう、尽力していく所存であります。

至らぬ点も多々ありますが、今後ともよろしくお願い致します。

一、飯尾 羽運

二、理科・生徒指導部

三、運転・サウナ

四、本年度より高田学苑でお世話になっております。生徒指導部に所属し、教科は理科、部活は高校陸上競技部を務めさせていただきます。

高田学苑にお世話になりました。たくさんの先生方にお世話になる中で当時の国語科の先生から「できないという思い込み、わからないという先入観」この言葉をいただきました。私は器用な方ではなく、課題や目標に対して挑戦できるのかという不安を抱くことがありますが、先生からの言葉を思い出し、「やってやれないことはない」という気持ちでとにかく挑戦する意識を持つて過ごしています。

そして、教師の仕事を全うしていく中でも言葉のパワーを大切にしていきたいと考えています。私から届ける言葉、生徒から受け取る言葉、一言一言に魂を込めて言葉の輪を広げていくよう務めてまいります。至らぬ点ばかりですが、よろしくお願い致します。

一、生駒 昌之
二、国語科講師
三、街並みの散策、文楽鑑賞
四、昨年度まで（高田）短大に勤務今年度から中学で古典を担当させていただきます。

高田短大に奉職したことの恩恵

の一つは仏教精神に触れたことでした。仏教行事に参加し、様々な講話を拝聴することができました。学長先生から親鸞聖人、真宗高田派のみ教えについてお教えいただく機会もありました。

中学生の皆さんが学力を身につけるとともに、古典を読むことを通して、いろいろなものの見方や感じ方を知ることができるような授業を少しでもできればと思っています。

どうぞよろしくお願いいたします。

一、渥美 麻友

二、国語・なぎなた指導員

三、描画・ピアノ・なぎなた・書道
四、本年度より、高田中・高等学校で非常勤講師として勤務させていただきます。

母校である本学苑で働く機会をいただき、先生方をはじめ、支えてくださる多くの方々に心より感謝申し上げます。

私は学生時代に、できないことを放置し、努力することを怠り後悔した経験があります。その際、本学苑の多くの先生方に支えていただいたことを今でも忘れません。この経験から、生徒には「聞くは一瞬の恥、聞かぬは一生の恥」の言葉を大切にし、分らないことは躊躇せずに質問することを勧めています。

また、なぎなたの指導において

は「文武不岐」の精神を重んじ、学問と武道を通して心身を鍛え、自己成長を促すことを大切にしていきます。

未熟者ですが、生徒との関わりを大切にし、日々成長していけるよう精進いたします。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

一、岡田 真次

二、社会科

四、今年度四月から社会科の非常勤講師になりました、岡田 真次です。

二〇二三年三月に還暦六十歳で定年退職となりました。その後二年間、ある学校で非常勤講師を担当しました。自分は本校との関わりもあります。高田中学校三年制の卒業生です。当時は野球部に所属し、部活動と学びの両立に力を注いでいたように思い返します。今年度の授業は高一の「公共」、三年生の「公民」を担当しています。公共、公民も成人年齢が十八歳となり社会に深くかわるために、単に暗記するだけではなく、自ら問いを立て、調べ、周りの人と対話する探求的授業を目指すこととなりました。授業自体の改革、社会の変革に対応するために、自分自身、学び続けなければなりません。定年退職後、授業をすることで、自分なりに老年期に充実感、やりがいを感じます。学ぶことは

老年期においても重要な課題のだと実感しています。本校において非常勤講師を担当させていただいていることは本当にありがたいことであります。

一、藤波 厚

二、理科(化学)講師

三、読書、旅行、古墳巡り

四、本年度より縁あって、歴史ある高田学苑で非常勤講師としてお世話になっております。高田Ⅱ年の化学基礎を担当しています。

経験年数ではベテランと呼ばれる域ではありますが、老化し融通の効かなくなった固い頭や心が、果たして役立つものなのかいまだに大変心配しております。けれども、勤勉で活気ある職員の方々の姿に触れ、初任の頃の自身の青臭い蠢きが思い出されました。何よりも、明るく素直な子どもたちと出会い、もう一度新鮮な気持ちで頑張ってみたいという思いとともに、背筋が伸びている自分に驚いています。

どれだけ便利な時代になっても、面倒くさくて手間のかかることをしていくこと、地道にコツコツ取り組むことこそが確実に成果を上げるのだ、という信念のもと、一杯取り組んでいこうと思っております。なかなかパージョンアップできない旧式モデルです。ご迷惑をおかけすることも多々あるかと思いますが、今後ともよろしく

くお願いいたします。

一、大島 寛司

二、高等学校数学科

三、料理

四、本年度より数学科でお世話になっております。私の故郷は山口県岩国市であり、三重県からは少し遠い所の出身になるかと思えます。転職をきっかけに十年程前に三重県に引越して参りまして、しばらくは民間企業等で働いておりました。数年前に思い切つて教育の世界に移ることを決め、以降は主に県内の学校を中心に講師として勤める生活を続けておりまして、今年度からは高田高校でもお世話になることになった次第です。

授業においては、数学的な理解の助けとなるようなモデル教材や電子教材を活用することを意識しております。また、中学生・高校生の頃はどのようなことを考えながら学生生活を送っていたか、そのような事を思い出しながら、生徒の皆さんの心に寄り添えるような授業を心掛けていきたいと思っております。これからどうぞ宜しくお願いいたします。

一、小林 靖子

二、事務部会計課

三、旅行・食歩き

四、本年度より高田中・高等学校の事務部に勤務させていただいております。前職では大学卒業後、地

元の金融機関にて預金業務や資産運用相談業務に従事しておりました。私の勤務していた営業店には学生の方の来店も多く、様々な学生の方と接する中で、教育現場に貢献したいという思いを強くしました。本年度より母校である高田学苑で勤めさせていただくご縁に恵まれ、教職員の皆様には温かく迎えていただき、深く感謝しております。学校事務を通して、生徒の皆さんの学生生活のサポートが出来るように努めたいと考えております。至らない点ばかりで、ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

一、林 一章

二、女子サッカー部

三、未知な場所を訪れる

四、私はサッカーを通じて、さまざまな国を訪問し、いろいろな人たちと接し、私たちとは異なる文化・常識に触れてきました。

その中で、「自分の」意思を持ち、表現できること、そして、「違い」を認めることの大切さを学んできました。

サッカーはあらゆる面で自分で見つけ、自分で考えて、自分で動くことが必要とされます。

それと同時に、仲間の中でいかにその自己を発揮できるか、という「共生的自立力」が求められ、養われる競技です。

学校教育の中でのスポーツとしても、サッカー競技としての成果、結果を求めることに留まらず、今後より国際化されるであろう社会を生きる生徒たちが「自分で」道を切り拓ける強さを養成できるように努めていきます。

一、下 條 彩

二、サッカー部

三、カフェ巡り、ランニング

四、今年度より、女子サッカー部のコーチとしてお世話になっております。福岡県で生まれ、サッカー選手として、埼玉、東京、三重、韓国、三重を渡ってきましたが、今年で三重県九年目になる

ほど第二の故郷になっております。これまでサッカー、一本で二十九年歩んできたため、世間のことも、勉強も遠回しにここまでできました。しかし自信を持って言えることは、忍耐力、順応力、努力すること。

間違いないサッカーを通して身につけてきたこともたくさんあります。それを次は私が生徒たちに指導していけるよう、生徒たちと共に成長していきたいと思っています。

そして自分からサッカーを取った時に何が残るんだろう、という不安と、梨農園での仕事の経験から農家さんの廃棄品、B品から商品化をする【ゼロイチプロジェクト】という0から1を生み出す取り組みも始めました。自分から

サッカーを取った時に何が残るんだろう、という不安から思いついた活動になります。何でも挑戦します！よろしくお願い致します。

一、服部 奈津子

二、スクールカウンセラー

三、ヨーロッパの小さな町巡り・アシュタンガ・ヨガの練習・ライブ

ハウスで音楽を楽しむこと

四、着任してひと月。校内ですれ違う生徒のみなさんから「こんにちは」と爽やかに挨拶して頂く度に、また教職員や事務職員の方々が温かく接してくださる度に、この高田学苑とご縁を頂けてよかったと感じる日々を送っています。

これまでは社会人を対象とした心理支援を中心に経験を重ねてきましたが、学校現場は本校が初めて。ちょっと緊張しながらのスタートです。しかし、実際に相談に来て下さる生徒一人ひとりが真剣な思いを語る姿に触れると「目の前の大切な人の気持ちに心を寄せ尊重しながら一緒に考える」ということは変わらないのだと気づかされます。

至らない点もありますが、持ち味の親しみやすさや柔軟な対応力を生かして、共に成長を喜び合える場づくりが出来れば嬉しいです。今後ともどうぞよろしくお願い致します。



一、堀 真由

二、SSH事務・自習室監督

三、フルート・料理

四、昨年九月よりご縁をいただき、高田学苑にてお世話になっております。

学校での勤務は初めてで戸惑いや不安もありましたが、周囲の皆さまが温かく優しく支えてくださったおかげで、少しずつ環境に慣れ、充実した毎日を送ることができております。心より感謝申し上げます。

自習室や事務所では生徒と直接関わる機会も多く、今後は生徒一人ひとりの成長にも寄り添っていきたくと考えております。

まだまだ至らない点も多く、ご迷惑をおかけすることもあるかと存じますが、引き続きご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

一、真弓 小百合

二、同窓会事務局員兼購買職員

三、スポーツ観戦

四、昨年の九月より樹心同窓会事務局員兼購買職員としてお世話になっております。これまで一般企業の営業事務職を勤めておりましたが、教育の現場で働くのは初めての経験となります。右も左も分からないことも多く、日々が新しい学びの連続ではありますが、子どもたちの学びを支えるこの環境に身を置けることに、心から感謝

しております。購買職員という立場から、先生方や生徒たちが充実した学校生活を過ごせるよう、細やかな気配りと丁寧な仕事を心がけてまいります。また、樹心同窓会事務局員として卒業生の方々の想いを大切に受け止め、学苑のさらなる発展に貢献できるよう尽力してまいります。皆様にご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、温かくご指導いただけますと幸いです。どうぞよろしくお願い致します。

短 大

一、廣田 千明(ひろた ちあき)

二、短大キャリア育成学科オフィスワークコース

三、コンピュータを使うこと全般

四、本年度よりキャリア育成学科オフィスワークコースで教鞭を執っております。担当授業は情報基礎演習や統計処理など、コンピュータ関連の授業を担当しております。人工知能(AI)の急速な発展により、社会が革新的に変化している現代において、コンピュータやAIを活用する能力は必須であると感じています。短大生の皆さんがコンピュータを効果的に活用し、より良い働き方ができるよう、微力ながら尽力してまいりたいと存じます。

私自身はこれまで津には縁がな

かったのですが、父親が津を創業地とする証券会社で定年まで勤め上げており、家族の中では「これも縁だね」と話しております。高田学苑のみならず、三重県内の教育に貢献できますよう精進してまいります。どうぞよろしくお願い致します。

一、橋本 晃

二、キャリア育成学科 介護福祉コース

三、ウォーキング、筋トレ

四、このたび、介護福祉コースに着任いたしました橋本晃と申します。

私は、高齢者福祉の仕事を経験した後、介護福祉士養成校にて学生教育に携わり今年で十年目を迎えます。この経験を通して、介護の仕事の尊さ、専門職としての質の向上、そして人材育成の重要性を強く感じています。

本コースにおいては、学生一人ひとりが豊かな人間性と確かな知識・技術を身につけ、社会貢献できる介護福祉士になれるよう全力でサポートしていく所存です。特に、教育では「生活支援技術」や「介護実習」等を通じて実践的な学びを重視し、即戦力となる人材を育みたいと考えています。

急速な高齢化が進む日本において、介護福祉士の役割はますます貴重な存在です。これから巣立つ卒業生が、地域社会の福祉を支える担い手として活躍してくれるよ

う心から願い、一日も早く学生や教職員の皆様のお役に立てるよう精一杯努めてまいります。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

一、山本 順三

二、キャリア支援センター

三、ニャンコと畑仕事

四、今年度四月よりキャリア支援センターで勤務をさせていただきました。います。この三月までは県立高等学校などで教員をしていました。伊賀、中勢、北勢地域において、特別支援学校も含めて七つの学校と、県教育委員会事務局での複数課にわたる多様な経験を活かし、本学学生のキャリア支援に尽力させていたと思います。高校生に比べて、大学生は成人でもあり、就職への意識など大きく異なると思いますが、学生一人ひとりの主体性を尊重しながら丁寧に傾聴しサポートに努めてまいります。さまざま、至らない点も多いかと思いますが、どうかご指導をいただきますようによろしくお願いいたします。

一、橋爪 祐子

二、キャリア支援センター

キャリアサポーター

三、読書・旅行

四、本年度より、キャリア支援センターで勤務させて頂いております、はしづめゆうこといいます。生ま

れも育ちも学校も職場も津市で、四十年以上勤めており、そのうち保育現場で三十七年、その後行政の方でもお世話になりました。そのため、昨今の保育士不足をひしひしと感じており、これまで自分自身やりがいをもつて務めていた保育士という職の魅力をもつと社会に発信していきたいと考えていたところに、キャリア支援センターのお話を頂きました。保育者を目指す学生さんたちの悩みや困り感に寄り添い、一人でも多くの学生の皆さんが、学生生活二年後には夢と希望をもって保育の現場に羽ばたいていけるよう、サポートしていきたいと思っています。どうぞご指導よろしくお願いいたします。

一、國分 由美子

二、キャリア支援センター

キャリアサポーター

三、ピアノ、腹話術、パン作り

四、今年度よりキャリア支援センターでお世話になっております。これまで鈴鹿市の公立幼稚園に三八年間勤務し、うち十一年間は園長として務めてまいりました。そして、職制定年を機にキャリアサポーターという縁をいただきました。これまで自分が経験した、子どもたちに頼られ、信頼される喜び、子どもたちの成長を目の当たりにできる感動、毎日の新鮮な「どきどき」「わくわく」する楽

しさ、そして何よりも子どもたちと共に自身が成長していける「やりがいのある仕事」であることを多くの学生の皆さんに伝えていきたいと考えております。そして私自身も新たな人たちとの出会いや新たな事への挑戦ができることに感謝の気持ちをもちながら尽力してまいりたいと思います。何卒よろしくお願いいたします。

一、山本 学

二、キャリア支援センター

キャリアサポーター

三、アウトドア全般。キャンプ、釣り、バイク、古道巡り等々多趣味

で困っています。がルールはお金をかけずに遊ぶことです。

四、昨年十月からキャリア支援センターでお世話になり、学生の方々に就職活動の支援を担当させていただいております。私は金融機関を中心に三つの会社に勤務した経験があり、三重県内や名古屋市の企業経営者や従業員と接点を持ちました。広範囲な業務の中で企業が必要としたスキルを持つ人材確保の相談や現場視察では確保すべき人材を考え企業側に提言することもありました。過去の経験を活かし企業側目線を持ったサポーターとして就職活動のアドバイスをしたと考えています。微力ですが学生の方々のお役に立てるよう努力する所存です。今後ともよろしくお願いいたします。

進路指導

高校進路指導部

人生で最も多感な時期に入る頃、彼らは新型コロナウイルス感染症という未曾有の世界的不安と向き合い、それを乗り越えて高校生活を過ごしてきました。こうした経験は、きっと彼らの進路選択に大きな影響を与えたことと思います。また共通テストは新しい教科「情報」を加え、彼らこそAI新時代の到来を迎えていく最初の世代となっていくでしょう。未知なるものへの不安に立ち向かい強く乗りこえてきた三年制392名、六年年制183名、合わせて575名の生徒たちは、令和七年三月一日、無事卒業の日を迎えることができました。今春の卒業生と既卒者を含めた、進路結果及び就職決定先がまとまりましたので、ご報告いたします。

〔進路状況〕

令和六年度の全体・三年制・六年年制の進路結果は次の通りです。

令和 7 年度入試進路状況

進学	合格者延べ数 (既卒者含む)	令和 7 年 5 月									
		3 年 制					6 年 制				
		I 類 現	II 類 卒	現	卒	小計	現	卒	小計	合計	
4 年制 大 学	国 立	1	0	25	2	28	61	13	74	102	
	公 立	0	0	11	0	11	14	7	21	32	
	私 立	188	5	294	11	498	283	76	359	857	
短 大	文部科学省 所管外	0	0	3	0	3	2	3	5	8	
	公 立	3	0	3	1	7	0	0	0	7	
	私 立	16	0	4	0	20	0	0	0	20	
就 職	国公立各種・ 専門学校	4	0	2	0	6	0	0	0	6	
	私立各種・ 専門学校	39	1	3	1	44	0	0	0	44	
	職 業	7	0	0	0	7	0	0	0	7	

過去 5 年間の合格者推移 3 年制

年 度	R2	R3	R4	R5	R6
卒 業 生	432	385	379	355	392
国 公 立 大 学	22	25	36	30	39
私 立 大 学	446	511	520	577	498
短 期 大 学	76	56	46	58	27
各種・専門学校	88	75	56	51	50
就 職	5	3	10	4	7

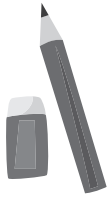
主な大学進学先	3 年制	6 年制
三重大学	12 名	
金沢大学	1 名	
奈良女子大学	1 名	
愛知教育大学	1 名	
滋賀大学	3 名	
県立看護大学	2 名	
中京大学	28 名	
愛知大学	26 名	
愛知学院大学	20 名	
名城大学	19 名	
京都産業大学	14 名	
龍谷大学	13 名	
近畿大学	12 名	
南山大学	14 名	
立命館大学	6 名	
関西大学	6 名	
関西学院大学	3 名	
鈴鹿医療科学大学	51 名	
皇學館大学	37 名	

○六年制

主な大学進学先

東京大学	4名
京都大学	2名
大阪大学	7名
一橋大学	1名
東京科学大学	1名
名古屋大学	4名
九州大学	2名
神戸大学	3名
三重大学	26名
早稲田大学	13名
慶應義塾大学	8名
東京理科大学	8名
上智大学	2名
明治大学	9名
中央大学	8名
南山大学	15名
同志社大学	29名
立命館大学	56名
関西学院大学	26名

過去5年間の合格者推移 6年制					
年 度	R2	R3	R4	R5	R6
卒業生	172	179	179	199	183
国公立大学(公全)	100	115	110	126	95
国公立大学(公現)	82	88	83	107	75
私立大学	417	510	510	518	359
医学部医学科(私立大学含)	56	64	63	77	64



昨年度の入試は、新教育課程への切り替えの最初の入試ということで、生徒・保護者の間には、大きな不安があったことでしょう。しかしこうした教育課程の大きな変化の年は、往々にして入試ではあえて奇抜なことを問わず堅実で受験生に誤解や混乱を与えない問題が作成されます。今年の共通テストは、「情報」という新しい教科を加え、また教育の三要素を意識した教科・科目の変更があった最初の年でもあります。受験生はどのように変わるのが不安な状況におかれていましたが、本校の生徒たちは、この三年間、また六年間本校で培った力を十分に発揮し、自らの夢の実現に向け数多くの合格を勝ち取ってくれました。

昨年度入試のトピックスとしては、三年制からは、国公立大学へ39名(既卒生含む)が合格し、これで三年連続の30名以上となり、そのうち地元三重大学へは12名が合格、準難関大学と名前を上げられる金沢大学や奈良女子大学の合格も手にできたことが挙げられます。さらに毎年I類からの国公立合格を出していることや、今年のII類特選の国公立合格率は58・6%という驚異的な成績も特筆に値します。もう「公立の滑り止め」と呼ばれるような学校ではないことをしっかりと発信し、特選を

中心として今後さらに三重大20名以上、そして、国公立大学50名の合格という目標をもち日々の教育を進めていきたいと考えています。

六年制からは、今年も、多くの生徒が医学部医学科を志望する傾向にあり、その影響で東京大学・京都大学への進学希望は減少をつづけています。しかし、防衛医科大学校医学部医学科に現役生1名を含む3名をはじめ、国公立大医学部医学科に昨年度を上回る31名(現役生21名・既卒生10名)、私立大医学部医学科に33名(既卒生含む)の計64名が合格を果たし、例年通り県内の医学部進学では他の追随を許しません。今後高田6年制の目標は、高い医学部合格数を維持しながら、かつてのような難関大学への志望者、合格者をいかに育てていくか、ということになるでしょう。

三重大高校柔道新人大会

高校県総体柔道競技

第六回文武両道杯全国高校柔道大会

令和六年度～七年度五月までの主な大会成績

■中・高柔道部(男子)
高校部員数十一名。内訳は次の通りです。

- Ⅲ年生 四名
- Ⅱ年生 三名
- Ⅰ年生 二名
- 四年生 一名
- 中学部員数 二名
- 二年生 一名

中・高部活動

三重県中学校柔道新人大会

男子個人 55kg以下級

三位 中居勇人

右記のように各大会で常に上位入賞を果たしていますが、目標はあくまで優勝です。

文武両道を果たしつつ部員たちで掲げた「力戦奮闘」をテーマに全国総体・選手権出場、文武両道杯全国高校柔道大会優勝を成し遂げられるよう精進しています。

また、高田高校柔道部は柔道教室や合同練習などを通じて地域の小学生や中学生の指導も行い柔道の普及・強化ならびに地域貢献ができるように努め、後輩たちの育成にも繋がるように活動しています。

このように活動できるのも学苑をはじめとする関係者の皆様のおかげであり、感謝いたします。引き続きご支援、ご協力賜りますようよろしくお願いいたします。

■中・高文芸部

文芸部は、高校文芸部員十一名と中学文芸部員七名とが一緒に活動しています。昨年度も多くの全国大会に出場し、賞をいただきました。

○第四十八回全国高校総合文化祭岐阜大会(八月二日～四日)に、加藤晴香さんが俳句部門の三重県代表として出場しました。

○第九回高校生万葉短歌バトルin高岡が富山県高岡市で開催され



(八月二十二日)、神田実咲さん、櫻井つむぎさん、豊田拳司さんの三名が出場し、三位入賞を果たしました。

○第五回万葉の郷ととりけん全国高校生短歌大会が鳥取市で開催され(十月二十六日)、神田実咲さん、櫻井つむぎさん、高取ゆりさんの三名が出場し、団体戦では見事優勝を果たしました。また、個人部門においては、加藤晴香さんが特別賞(江戸雪審査員選)を受賞しました。

○第三十九回全国高等学校文芸コンクールでは、神田実咲さんが短歌部門で優秀賞を受賞しました。

○短歌道場が岐阜県郡上市にある古今伝授の里フィールドミュージアム短歌の里交流館で九月十六日に開催され、櫻井つむぎさん、樽松望乃さん、豊田拳司さんの三名が出場しました。

今年も多く的大会に出場し、優勝、最優秀賞受賞を目指して意欲的に取り組んでいきます。

■中・高俳句部

本校には、中学俳句同好会と高校俳句部があります。文芸部の活動の一つとして俳句に取り組む学校が多い中、「俳句部」という名前で活動を行っているのは全国的に珍しいことです。この名前を守りながら、現在中は高合わせて十一人で活動しています。

私たちの目標は、毎年愛媛県松山市で開催される全国高等学校俳句選手権大会、通称俳句甲子園の全国大会に出場し、成績を残すことです。

俳句甲子園はディベートによって勝敗が決定します。そのため、良句を創作することだけでなく、鑑賞し表現し、討論することにも重きを置いて練習に取り組んでいます。

俳句部は過去二十一年間のうち、十五回全国大会に出場しました。そして、準優勝や第三位という成績を修めたこともあります。しかし、ここ数年は地方予選で敗れてしまい、全国大会出場の切符を逃しています。今年こそは全国大会に行く、松山という地で多くの質の高い句と出合いたい、このような気持ちを持って、部員全員と切磋琢磨して精進して参ります。

■中・高数研部

数研部です。本年度も部員一同、目標達成に向けて日々努力を続けています。活動内容は、大きく分けてプログラミングと数学オリンピック対策の二つに重点を置いています。プログラミングの練習は、本館四階のOA室で行い、主にC++を使ったアルゴリズムの実装など実践的な課題に取り組んでいます。また、数学オリンピックの対策は第二体育館三階の数研部部室で行い、過去問や応用問題を解きながら高度な数学的思考を磨いています。活動時間は平日の放課後から十八時までです。

今年度の目標は、国際情報オリンピック、国際数学オリンピックへの出場、さらにはパソコン甲子園本選への進出を掲げています。昨年度は多くの部員が情報オリンピックで敢闘賞を取得するなど、部の実績が着実に積み重なっていることを感じています。また、過去には情報オリンピック本選や数学オリンピック本選への出場を果たすなど、全国でも競技力を発揮してきました。

部員は中学生・高校生合わせて四十九名で構成されており、今年度は高校1年生一名、中学1年生十一名が新たに加わり活気あるスタートを切りました。部員一人ひとりが自分の目標を達成するために挑戦しながら、チーム全体でレベルアップを図っています。引き続きご指導ご支援のほど、よろしくお願いいたします。

■中・高筆曲部

筆曲部は現在、高校三年生二十五名、中学十一名の計三十六名で活動しています。月曜日から金曜日の放課後に練習があり、水曜日と金曜日には外部から講師の尾田先生に来ていただき、指導していただいています。今年もたくさんの方の加入が望まれます。今年もたくさんの方の加入が望まれます。今年もたくさんの方の加入が望まれます。

昨年度の活動としてまず、例年夏に開催されている三重県高等学校日本音楽演奏会に出場しました。高校一年生にとっては初めての大舞台だったので、不安や緊張もあったと思いますが、一生懸命練習を重ねました。練習ではなかなか上手く演奏ができなかったり、学校のスケジュールにより部員全員が揃わなかったりして、焦りや不安を感じることがありました。しかし、先生や部員みんなのお互いへの励ましの言葉などで士気が高められ、団結することが出来ました。そして本番では第二位という誇らしい成績を収めました。その結果、十一月には近畿高等学校総合文化祭福井大会の日本音楽部門に三重県代表として出場して、他県の代表校と同じ舞台上に立ち演奏できたことは、とても大きな自信に繋がりました。

私たちはこの経験から、部員全員で演奏することの楽しさや難しさ、仲間がいることの頼もしさ、そして何よりも演奏することの喜びを感じました。今年も三重県高等学校日本音楽演奏会に出場し、昨年よりもいい結果を残せるような演奏を目指しています。本番に向けて、部員一同力を合わせて、楽しみながら日々練習してきたいと思っています。

筆曲部部長 高橋 花

■中学軟式野球部

中学軟式野球部は、三年生九人、二年生十四人、一年生十五人で活動しています。木曜日以外の平日と、土日で練習に励んでいます。

チームは中学校に入ってから野球を始めた部員が多いので、部員同士が教え合うことで技術的な面でも、精神的な面でも成長することができていると思います。二〇二四年津市中体連秋季野球大会では準優勝を果たし、県大会に出場することができました。夏季総体でも一度県大会に出場し、そこで優勝するという目標を掲げて、日々練習に取り組んでいます。

練習で特に重視して頑張っていることは、守備です。内野ノックや外野ノックを中心に、実践形式のノックやバント処理の練習をすることで、少しでもエラーを減らせるように努力しています。打撃面に関しては、ヒットを打つことは簡単ではないため、バントを確実に成功させることが大切だと考えています。また、大会前には朝練を実施して、トスバッティングに励み、ボールを上手く捉えることやスイングスピードの向上を目指して取り組んでいます。守備面でも打撃面でも、一人ひとりがしっかりと目標を持って練習に取り組む、チーム全体のレベルアップに繋がってきたいと思っています。

夏季総体まで一ヶ月あまりとなりました。残りの短い期間でどこまで勝ちたい気持ちを高め、同じ目標に向かってチーム一丸となって努力できるかが大切だと思います。「野球を楽しむ」というチームポリシーを大切にしつつ、チーム全員で力を合わせて勝利を掴み取りたいです。

中学軟式野球部キャプテン

3b 山本 一登

■中学卓球部

「子ども達と共に」

顧問 立木 正寛

中学卓球部です。男子三十六名、女子九名で練習しています。練習場所、私が学生の時と同じ第一体育

館の卓球場で、恩師の先生や優しい先輩方に指導いただき楽しく過ごした昔を思い出しながら、我が子と同じ年代の子ども達と共に、日々汗を流しています。以前全国出場を目標に掲げ、卓球で進学することを目指す子ども達を指導していた高校の部活動とは全く異なり、県大会に出場することを目標に、限られた部活動の時間で各自が少しでも質の高い練習をすることを心がけ、文武両道に苦心しながらも懸命に取り組んでいます。

私はこれまで、長く卓球に関わってきました。選手として人に誇れるような戦績はありませんが、このスポーツを通して多くの人と出会い、その出会いが私自身の人生に少なからず影響を与えてきました。顧問として指導する立場になってからも、卓球界で活躍されている本校OBの方々と始め、他校の先生や地域のクラブチームの方々に支えられ、これまで顧問としてとても充実した日々を送ることができました。

中学卓球部の顧問になって二年目、選手として全国大会に出場され、また指導者として現在日本のトップで活躍している選手を指導された経歴を持つ前川先生を始め、今年から新たに加わっていただいた高田OBの先生方と一緒に、日々厳しく楽しく練習しています。先日行われた津市中体連春季大会では、前回の優勝校をあと一步の所まで追い詰めることができました。

あと少しで中学三年生は引退します。卓球が大好きで真っ直ぐな子ども達と共に、残された時間を目一杯楽しみたいと思います。応援よろしくお願いいたします。

も達と共に、残された時間を目一杯楽しみたいと思います。応援よろしくお願いいたします。

■中学馬術部

中学馬術部は、四月に新入生七名を加え、三年生七名、二年生四名の計十八名で二〇二五年度の活動を開始しました。

昨年度も、中学生のみで開催される「全国中学校馬術交流戦」が、早稲田大学馬場にて開催されました。

全国中学校馬術交流戦は全国の中学校馬術部員が、馬術を通して、心身の育成、技術の向上・充実と生徒相互の親睦を目的に行われ、慶應義塾中等部、早稲田実業学校中等部、甲南中学校、福井工業大学附属福井中学校そして本校の五校より二十九名の選手が出場しました。駆足部班競技、速歩部班競技、ジムカーナ競技が行われ、各校関係者、保護者の方々と大勢の観客の中、それぞれの選手が練習の成果を発揮し、本校は速歩部班競技（優勝・近藤、三位・倉田）、駆足部班競技（優勝・村上、三位・田中）、ジムカーナ競技（優勝・佐藤、準優勝・藤川、三位・長谷川）、総合優勝という成績を納めることができました。

競技終了後には表彰式・懇親会が行われ、各校選手、関係者、保護者で一〇〇名を超える盛大な会で交流を深めることができました。

一般の大会においては、「2024 DRESSAGE in SUZUKA Summer」、「2024 DRESSAGE in SUZUKA Autumn」、「二〇二四みえスポーツ

フェスティバル」、「二〇二五新春三重県馬術大会」、などに出場し、優勝及び入賞を果たしています。一緒に活動している高校生からも学びを得るとともに、日々感謝の気持ちと愛馬精神を忘れず活動に取り組んでほしいと思っています。

今後とも、応援の程よろしくお願いいたします。

【令和六年度 中学馬術部成績】

※旧学年での記載となります。

○令和六年度全国中学校馬術交流戦

【総合】 優勝

【個人】

速歩部班競技

優勝 近藤菜々香
第三位 倉田 佑樹

駆足部班競技

優勝 村上 颯
第三位 田中 心花

ジムカーナ競技

優勝 佐藤 優衣
第二位 藤川真里花
第三位 長谷川朋也

■中学バスケットボール部

現在、中学バスケットボール部には男子三十四名。女子二十八名の計六十二名が所属しており、主に第三体育館を使用して活動しています。

今年度の男子チームは、バスケットに対して強い情熱を持った選手が多く、高等部とも合同練習を定期的に行うなど練習に励んでいました。その甲斐あって、県大会出場を狙え

るだけの力を身に付けています。夏の中体連では、持てる力を存分に発揮してもらい、県大会出場を果たして欲しいと思っています。

女子チームは、明るく元気な雰囲気が出が特徴です。三年生は三人と少数ですが、その三年生の最後の大会である夏の中体連で、一つでも多く勝利することを目指して頑張っています。また、挨拶や学年行事への協力など、部活動以外の学生生活でも高田中学を引っ張る存在になって欲しいと思っています。

同窓生の皆様には、バスケットボールを通じて日々成長する生徒たちのことを温かく見守っていただければ幸いです。

顧問一同

■中学女子バレーボール部

現在、中学校女子バレーボール部は三年生四人、二年生四人、一年生六人の計十四人で活動しています。公式戦で勝つことを目標に、日々生徒達は切磋琢磨して練習に励んでいます。ほとんどが未経験者で、公式戦では苦戦していますが、全員で声を出して全力で攻め続ける高田のパレーボールで、強い相手にも諦めずに戦い続けています。

未経験者ばかりのチームで試合に勝つことは簡単ではありません。昨年に引き続き今年のチームの戦績も苦しく、公式戦ではまだ一度も勝てていません。公式戦になるといつも以上に頑張らなければ、と緊張してしまい、普段の力の半分も出せてい

ないような印象です。高校のバレーボールを題材とした人気スポーツ漫画「ハイキュー!!」の中の「奇跡を起こそう」としてのわけじゃない。今まで何遍もくり返してきた事をここ

でまたやるだけなんだ。」という屈指の名言にもあるように、試合は練習でやってきたことをやる場であり、練習に真摯に取り組む、試合の中で自信を持ってプレーできるようになると試合の内容や結果が変わってくるだろうと考えています。試合での頑張り以上に練習での頑張りが必要だ、という共通認識をチームで持ち、練習に取り組む姿勢から変えていこう、とキャプテンを中心に頑張っています。約二年努力し続けてきた新中学三年生が、晴れやかな表情で引退できるように、指導を続けて参りたいと思います。

最後になりますが、部活動を通して、本気で取り組むからこそ得られる悔しさや喜びを味わい、生徒が高校、大学を卒業し、社会にでた際にも頑張り続ける糧にしてもらえたら、指導者として嬉しく思います。また、生徒達が部活動を思い切り楽しめる環境を作れるよう、顧問として全力を尽くして参りますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

■中学サッカー部

こんにちは、中学サッカー部です。中学サッカー部にはスローガンが二つあります。一つ目は「賢く・鋭く・勇ましく」。二つ目は「印象・信頼・感謝」です。二つ設定している理由は「サッカーをしている時」

と「サッカーをしていない学校生活の時」の目標を作ろうという想いから誕生しました。部活動とは学校生活の一部です。そのため、サッカー部では「印象・信頼・感謝」という三つの言葉を意識して学校生活を送っています。

明るい挨拶、身だしなみ、姿勢、明るい表情、返事、ものの管理などによって自分に対する他人からの「印象」が変わります。そして、それがサッカー部全体の印象となります。

サッカーは十一人で行う信頼のスポーツです。普段の行動から約束を守る、時間を守る、嘘をつかないことと仲間や先生から「信頼」されるようになり、絆が生まれます。

友達、先生、コーチ、対戦相手、審判、保護者、サッカー用具そしてサッカーのできる環境に「感謝」しなければなりません。感謝するということは、他のことに對して思いやりを持つことにも繋がります。このスローガンを大切にし、サッカーというスポーツを楽しみながら良い結果を残していきたいです。

■中学なぎなた部

現在、三三年四名、二年生二名の計六名で活動しています。四月に新入生が入部せず、現在も募集しております。

昨年は、七月に行われた三重県選手権大会知事杯三重県小・中学生なぎなた大会の個人の部で優勝し、知事杯をいただくことが出来ました。中一からコツコツ地道に頑張ってきたことが実を結んだ瞬間でした。東海大会では演技、試合の部とも四位と、あと一歩で表彰台を逃し、悔しい思いもしましたが、これを糧にして、今年度も三重県選手権大会連覇、東海大会、全国中学生大会での入賞を目指して、基本を大切に精進して参ります。今後とも応援よろしくお願いたします。

【主な戦績】

顧問記

●第三十八回三重県なぎなた選手権大会兼三重県知事杯第十一回三重県小・中学生なぎなた選手権大会
(令和六年八月 津市久居体育館)

中学試合の部 優勝 吉岡 紗希
三位 松井 花奈

●令和六年度全日本少年少女錬成大会
(令和六年七月 日本武道館)

中学生演技の部

敢闘賞 松井 花奈・吉岡 紗希
敢闘賞 江崎礼智那・加藤 祥子

●東海なぎなた大会
(令和六年十月 静岡県立武道館)

演技の部 四位 飯田悠紀野

試合の部 四位 吉岡 紗希

●津市民スポーツ大会
(令和六年十一月 高田高校)

中学演技の部 優勝 松井 花奈
二位 吉岡 紗希

二位 森下 柚希
加藤 祥子

中学試合の部 優勝 吉岡 紗希
二位 松井花奈
三位 加藤祥子

■高校軟式野球部

私たち高田高校軟式野球部は、現在、マネージャー四名を含む計四十二名の部員が、顧問の先生方やコーチ、保護者の皆様のご支援をいただきながら、日々活動に励んでいます。

部員が多いので、チーム全体の意思統一やレギュラー争いなど、さまざまな課題も抱えておりますが、それ以上に、先輩・後輩・マネージャーの垣根を越えて部員同士の仲が良く、明るく前向きな雰囲気の中で、「全国大会出場」という代々受け継がれてきた目標に向かって日々練習を重ねています。

今年、私は「全国高校軟式野球選手権大会七十回記念 春の軟式交流試合in甲子園」に出場する機会をいただきました。甲子園で高校軟式野球の試合が行われるのは初めてという特別な場に立つことができ、とても光栄でした。甲子園のグラウンドに足を踏み入れた瞬間、これまで積み重ねてきた練習の日々や支えてくれた人たちの顔が思い浮かび、緊張感とワクワク感が止まりませんでした。全国から選ばれた実力のある選手たちとともにプレーする中で、レベルの高さを実感しながらも、自分らしいプレーができたのとても良かったです。この舞台に立てたのは、決して自分一人の力ではなく、日々支えてくれた家族、励まし合ってきた

チームメイト、熱心にご指導くださった先生方のおかげです。その感謝の気持ちを忘れずに、何よりも「野球を楽しむこと」を大切に、試合に臨むことができました。そして、甲子園という聖地に立った者にしか味わえない成長も感じる事ができました。

甲子園でプレーしたことは、僕の十一年間の野球人生の中で最も印象深い経験となりました。この経験から学んだことを、これからの練習や試合に活かし、高田高校軟式野球部が全国大会に出場できるよう、チームを引っ張っていききたいと思います。

四年5組 山本 錬

■高校卓球部

令和七年度三重県高校総体卓球競技兼全国総体兼東海総体三重県予選会が行われました。結果は次の通り。

【中勢地区予選会 男女シングルス・男女ダブルスの部】

四月十九日 津市久居体育館

男子シングルスでは、Ⅲ4山内健太、Ⅱ2高畑奏斗、ⅠD谷翔真、Ⅰ2野崎新太、Ⅰ6清水俊哉が予選通過。女子シングルスでは、Ⅲ1田川陽彩、Ⅱ1松田聖花、Ⅰ3別所柚里奈、Ⅰ1稲尾花穂、Ⅰ2御村萌々花、Ⅰ6駒田和海、ⅠC飯田結羽が地区予選を通過。男子ダブルスでは、Ⅲ4山内健太・Ⅱ2高畑奏斗組、Ⅱ2松生翼・ⅠD谷翔真組、ⅡA伊藤天文・Ⅰ2野崎新太組、Ⅰ6寺口優

生・Ⅰ6清水俊哉組、女子ダブルスでは、Ⅱ1松田聖花・Ⅰ2御村萌々花組、Ⅰ3別所柚里奈・Ⅰ1稲尾花穂組、ⅠC飯田結羽・Ⅰ5森田春月組が地区予選を通過。

なお三重県ランキング上位のため、男子シングルスでⅢF杉本健悟、Ⅲ2濱田太一、Ⅱ2松生翼、女子シングルスはⅡ1川合泉穂、男子ダブルスではⅢF杉本健悟・Ⅲ2濱田太一組、女子ダブルスではⅢ1田川陽彩・Ⅱ1川合泉穂組が、地区予選免除で県大会出場となりました。

【三重県予選会 男女ダブルスの部】
四月二十六日 三重交通Gスポーツの杜伊勢

男子ダブルスでは、ⅢF杉本健悟・Ⅲ2濱田太一組が第二位で全国総体と東海総体の出場権を獲得しました。女子ダブルスでは、Ⅲ1田川陽彩・Ⅱ1川合泉穂組が第四位に入賞し、東海総体の出場権を獲得しました。

【三重県予選会 男女シングルの部】
五月三日 三重交通Gスポーツの杜伊勢

男子シングルスでは、ⅢF杉本健悟が第五位、Ⅲ2濱田太一が第七位。女子シングルスでは、Ⅱ1川合泉穂が第六位で、東海総体の出場権を獲得しました。

東海総体は六月十四日から三重県津市の日硝ハイウエアアリーナにて、全国総体は七月三十一日から山口県下関市にて開催されます。



■高校ソフトテニス部

男子はⅡ年生十一名、Ⅰ年生八名、四年生五名の計二十四名、女子はⅢ年生二名、Ⅱ年生四名、五年生二名、Ⅰ年生五名、四年生一名の計十四名で活動しております。技術の向上だけでなく、人間的に成長することを大切にして日々練習しています。

先日行われた春季大会団体戦では、男子は初戦敗退となつてしまいました。男子は、レベルの高いチームに善戦しました。女子はベスト8決めの試合で三本勝負のファイナルで敗れ、惜しくも入賞を逃しました。男女ともに、目に見える形での結果は残せていませんが、成長を感じる事ができ、今後が非常に楽しみです。何より、男女が一緒に声を出して応援し、チーム一丸となつて戦うという、団体戦の醍醐味を味わうことができ、チーム全体で喜びや悔しさを分かち合いました。目標として掲げている『東海大会出場』までもう少し。とても厚い壁ではありますが、あきらめずにチャレンジを続けています。先輩方が残してくれた伝統を引き継ぎ、よりよいチーム作りに今後も励んでいきたいと思っています。

現在私たちは第三体育館東側にあるオムニコート二面とクレイコート一面を使って練習しています。それ以外に、JR一身田駅近くのオムニコート二面を他の部活動と交代で使っています。施設にも恵まれ、雨天でも練習ができるありがたい環境です。OB・OGの皆様、母校に立ち寄られる機会がありましたら、是非、コートまで足を運んでください。

引き続き、応援よろしくお願いいたします。

■高校馬術部

高校馬術部は、四月に中学校より継続の四年生一名、Ⅰ年生五名の新生計六名を迎え、六年生二名、Ⅲ年生一名、Ⅱ年生四名、五年生四名と合わせ、計十七名で二〇二五年度の活動を開始しました。今年度も、東海大会や全国大会、国民体育大会等において好成績を残せるよう、日々の練習に励んでいます。

昨年度は三つの全国大会に出場しました。全日本高等学校馬術競技大会は一回戦で敗退しましたが、全日本高校生自馬選手権大会では、馬場団体優勝・障害団体二位、団体総合優勝（九連覇）を達成することができ、同大会障害馬術選手権競技では山下が優勝しました。個人では、全日本高等学校馬術選手権大会に二名が出場（松村・三回戦、土肥・二回戦）、その他の大会においても、東海王座での優勝、東海新人戦での優勝をはじめ、一般の大会でも多数入賞と、好成績を数多く収めることができました。昨年度の経験を糧として、今年も六月の東海予選、七月・八月の全国大会、十月の国民スポーツ大会に加え、十二月の自馬選手権大会の十連覇を目指しています。一日一日を大切に、悔いの残らないよう、全力で取り組んでいってほしいと思います。

OBの皆様には日頃より多大なご支援を頂き、部員・顧問一同大変感謝しております。日々感謝の気持ち

を忘れず、馬術部の目標である「日本一の馬術チーム」を目指して部員、顧問取り組んでいきますので、今後とも応援の程よろしくお願いいたします。

【令和六年度

高校馬術部成績（主要大会抜粋）
※旧学年での記載となります。

●第七十四回三重県高等学校

総合体育大会馬術競技

○障害飛越競技 男子個人

優勝 西岡 弘稀
第二位 杉原 琉文
第三位 永井 智大

○馬場馬術競技 男子個人

優勝 永井 智大
第二位 西岡 弘稀
第三位 杉原 琉文

○障害飛越競技 女子個人

優勝 水谷 さわ
第二位 小笠原芽咲
第三位 平澤 空夏

○馬場馬術競技 女子個人

優勝 平野 熙慧
第二位 大井 伶麻
第三位 大平 珠生

●第五十八回全日本高等学校

馬術競技大会東海地区予選

第四位 永井・杉原
西岡・山下
土肥・濱地

●第三十五回全日本高等学校

馬術選手権大会東海地区予選

優勝 松村 凜
シード 土肥 悠真

●国民スポーツ大会

第四十五回東海ブロック大会

○少年標準障害飛越競技

第二位 山下 泰芽

○少年団体障害飛越競技

第二位 濱地陽菜乃

○少年馬場馬術競技

第二位 土肥 悠真

○少年スピードアンドハンディネス
競技

第五位 山下 泰芽

○少年二段障害飛越競技

第五位 濱地陽菜乃

●第五十八回全日本高等学校

馬術競技大会

一回戦 土肥・山下
濱地・松村
平野・永井

●第三十五回全日本高等学校

馬術選手権大会

三回戦 松村 凜
三回戦 土肥 悠真

●令和六年度東海高等学校

馬術王座決定戦

○馬場馬術の部

優勝 杉原 琉文

○障害飛越の部

第四位 永井 智大

○団体総合

優勝 杉原・永井

●令和六年度東海高等学校

馬術競技新人戦

○馬場馬術の部

優勝 西岡 弘稀

○障害飛越の部

優勝 水谷 さわ

○団体総合

優勝 西岡・水谷

●第九回全日本高校生自馬選手権大会

○馬場馬術競技第二課目C決勝

第三位 大井 伶麻

○馬場馬術競技第三課目A決勝

第四位 水谷 さわ

第十位 平澤 空夏

○馬場馬術選手権競技 決勝

第三位 杉原 琉文

第四位 濱地陽菜乃

第六位 西岡 弘稀

○小障害90cm 決勝

優勝 水谷 さわ

○障害飛越選手権競技 決勝

優勝 山下 泰芽

第四位 濱地陽菜乃

第六位 永井 智大

○馬場馬術選手権競技 団体

優勝 濱地・杉原

西岡・水谷

大井・平澤

○障害飛越選手権競技 団体

第二位 山下・濱地

永井・水谷

○団体総合

優勝 山下・濱地

永井・杉原

西岡・水谷

大井・平澤

小笠原



■高校バスケットボール部

私たちは、男子は部員二十八名、女子は部員十六名で活動をしています。男子は、～になりたい自分になろう～をスローガンに掲げ、県大会ベスト8を目標に、女子は県大会出場を目標に日々部活動に励んでおります。

男子は、昨年は思うような結果を残せず、県大会の出場も果たせない悔しいシーズンとなりました。その経験を糧に、今年のチームはスタート時から全員で意識を共有し、ミーティングを重ねて、目指す姿を明確にし、シーズンに臨みました。その結果、今年はすべての大会で県大会への出場を果たし、少しずつではありますが、目標に近づいている実感がああります。しかし、前回の大会でベスト8入りをかけて戦った際、対戦相手に僅差で負けたことで、「目標を達成する覚悟」という気持ちの面で自分たちが甘かったことに気付かされました。この経験が、チームにとって大きな転機となつていきます。努力を重ねる中で、応援してくださる方々の存在も大きな支えとなっております。頑張っていると、その姿を見て声をかけてくれる人が増え、チーム全体の力となつていることを日々感じています。これから感謝の気持ちを忘れず、真の覚悟を持って目標に挑み続けていきたいと思ひます。女子は、部員数が少なく、思うように練習ができない時期もありましたが、シーズン後半にはチームとしての団結力が高まり、明るく前向きな雰囲気の中でバスケットに

取り組めるようになりました。個々の力だけでは難しい場面も多い中で、「チームで攻めて、チームで守る」ことを大切に、戦術を取り入れながら、全員で協力する姿勢が少しずつ形になってきました。また、仲間への声かけやコミュニケーションも積極的にを行い、チームのつながりも深まってきています。これまで大切にしてきた「仲間を信じること」「チームで戦うこと」を忘れず、今後もさらに成長していきたいと思ひます。

■高校男子バレーボール部

高校男子バレーボール部は、「勉学と部活動の両立」「One for all All for one」をモットーに、「三重県ベスト8以上」を目指して日々練習に励んでいます。令和七年度は、三年生十一人、二年生七人、一年生十五人(マネージャー三人を含む)、合計三十三人で活動しています。選手三十人のうち十三人、つまり部員のおよそ半数がバレーボール未経験者ですが、努力次第でレギュラーに選ばれるチャンスがあり、実際に試合で活躍している未経験出身の選手もいます。

部員たちは、練習メニューを話し合ったり、練習試合などで得た内容から改善点を共有したりしながら、日々の練習がより良いものになるようお互いを高め合っています。バレーボールは六人で行う競技のため、一人がどれだけ上手でも限界があります。また、コートに立つ選手だけでなく、控えの選手も必死に努力し、ポジション争いを繰り広げなければ、

良いチームにはなれません。そのため、私たちはポジション争いという「競争」を通じて、チーム全体のレベルを高めています。

さらに、バレーボールで必要なのは「声を出して、コミュニケーションをとる」ことです。一人ひとりがしっかりと声を出してプレーしなければ、良いプレーは生まれません。そのため、練習から「声を出して、元氣よくやる」ことを意識しています。

令和六年度には、「三重県高等学校総合体育大会バレーボール競技において第七位」、「東海私立高等学校男女バレーボール選手権大会に出場」という結果を残しました。今後、チームの仲間を大切にしながら良きライバルとして切磋琢磨し、それぞれが向上心を持ってチームの目標である「三重県ベスト8以上」を目指します。

目標を叶えるために、粘り強いチームを目指すとともに、バレーボールという競技をよりいっそう楽しみながら、これからも活動していきます。

■高校サッカー

部活動について

男子サッカー部顧問 若林 広繁

高田高校男子サッカー部は、今年度で創部三十二年目を迎えることになりました。今年度は三年生二十二名、二年生二十一名、一年生十五名の計五十八名で活動しています。今年度も「文武両道」をモットーに掲げ、勉学に励みながら、勝負にこだわっていきけるチーム作りに取り組んでいます。また、チームのスローガンである「不撓不屈」を信念とし、県内の強豪校に打ち勝てるようなチーム作りを目指して日々練習に励んでいます。昨年度、男子サッカー部は三重県サッカーリーグ三部リーグ十四チーム中五位という成績となり、二部リーグ昇格はできませんでしたが、昨年度の悔しさを糧に、今年度の部員達もまずは「二部リーグ昇格」を目標にしています。現部員達

は先輩たちの残してくれた伝統を大切に受け継ぎながら、新たな記録を築き上げるため、チーム一丸となり、全力で勝利を目指していきます。今後、今まで以上の好成績を残していくよう指導に励んでいきたいと思ひます。

また、女子サッカー部は昨年度、三重県高校総体で三位という結果を得ることができました。そして、今年度から林一章監督、下條彩コーチを迎え、森田琳先生が顧問として復帰し、新体制で一丸となつて三重県高校総体に向けて練習に励んでいます。

本学サッカー部は、誰からも応援されるチームになるため、チームの一員として何事も全力で勝ちにいく闘う姿勢、他者を思いやり感謝する気持ち、そして生涯サッカーを愛し続ける気持ちを大切にしながら、「全員サッカー」を発揮できるチーム作りを目指しています。高田高校の一員としての誇りを持ち、いっそうの努力を忘れず、部員、指導者共々日々精進していきますので、今後ともご支

援ご声援の程よろしく願ひします。

■高校なぎなた部

現在、三年生四名、五年生二名、二年生一名、四年生一名、新入生一名の計八名で活動しています。昨年は、二年連続でインターハイの団体出場権を得られませんでした。東海総体では、連覇できなかった悔しさをバネに優勝旗を奪還することができました。また、三重県新人大会では、全国選抜大会の団体出場権を得られませんでした。東海ブロックの各県二位校がブロック枠を掛けて戦う、ブロック推薦枠決定戦で勝利し、選抜大会の出場権を獲得しました。大会では、入賞には後一歩及ばずでしたが、よいチームワークで団体ベスト16と健闘しました。今後はインターハイ入賞、東海総体では、連覇を目指して精進してまいりますので、応援よろしく願ひいたします。

【主な戦績】

顧問記

●令和六年度東海高等学校

総合体育大会

(令和六年六月 岐阜県立大垣商業高等学校)

女子個人 優勝 和泉 陽葵

団体 優勝 和泉 陽葵

高士 夏葵

田中 一葉

藤田 結利

武田 清奈



●令和六年度全国高等学校

総合体育大会

(令和六年八月 大分市レノック武道センター)

演技の部 出場 田中 一葉

個人の部 出場 藤田 結莉

個人の部 出場 和泉 陽葵

●令和六年度三重県高等学校

新人なぎなた大会

(令和六年十二月 高田高校)

演技の部 三位 武田 清奈

三位 藤田 結莉

三位 谷 香澄

小林 由奈

女子個人試合の部

三位 藤田 結莉

(選抜大会代表)

木下 佐弥

団体 二位 木下 佐弥

藤田 結莉

小林 由奈

前田 郁葉

武田 清奈

●第二十回全国高等学校なぎなた選抜

大会東海ブロック推薦枠決定戦

(令和七年一月 東海学園大学)

団体 優勝 木下 佐弥

藤田 結莉

小林 由奈

前田 郁葉

武田 清奈

●第二十回全国高等学校

なぎなた選抜大会

(令和七年三月 伊丹市スポーツセンター)

女子個人 ベスト32 藤田 結莉

団体 ベスト16 木下 佐弥

藤田 結莉

林 由奈

前田 郁葉

武田 清奈

■高校新体操部

新体操部です。本年度も部員一同、部活と勉強の両立を目指し、日々練習に励んでいます。昨年度は高校二年生の選手が福岡県で行われたインターハイでは個人総合優勝、香川県で行われた全国選抜大会でも個人総合で優勝することができました。今年はいんターハイで個人総合二連覇および団体出場を目指していきたいと思っています。また昨年度より、男子新体操が国民スポーツ大会に採用されました。昨年は本校新体操部から三名が出場し、三重県として六位入賞を果たしました。国民スポーツ大会では個人のみならず団体での得点も必要となります。現在はその大会に向けて団体にも力を入れて練習に打ち込んでいます。

■高校バトン部

私たちバトン部は、一年生七人、二年生十二人、三年生七人の計二十六人で活動しています。

活動は、個人や団体の大会に向けての練習をメインに、文化祭や野球応援、地域でのイベントやボランティア活動に向けての練習を重ねています。

活動は、平日は十七時四十五分まで行っており、月に二回ほど土日の午前中も行っています。この土日の練習では、外部指導員の川崎コーチとともに活動をしています。また、大会に向けての講習会にも参加して、プロの方々から指導していただくことで、バトン技術の向上を図っています。

その練習の成果を、個人の大会と団体の大会で披露しています。個人の大会では、既定の演技ができていくか、バトンの技術が確かに身につけているかなど、自分の技量を図るのに対し、団体の大会では部全体で一つの作品を作り上げます。息がぴったり合った演技は圧巻です。素敵なパフォーマンスができるよう、これからも頑張っています。

また、バトンの練習の合間をぬって、野球応援やイベントなどで披露するダンスやチャアの練習もしています。コロナが流行してから披露する場が少なくなりましたが、段々と機会が増えてきたので、とてもうれしく思います。

これからも皆さんに笑顔届けられるよう、これからも全力で頑張っています。応援よろしく願います。

ます。

■高校書道部

本年度は八名が入部し、二十二名でスタートしました。

普段の活動は、展覧会に向けた作品制作や文化祭での書道パフォーマンスです。作品制作では、半紙サイズの小さな紙から二メートル以上の大きな紙にも揮毫します。活動日には、真剣に作品に向き合う部員の姿を見ることが出来ます。一方で、和気藹々とした様子も多く見られ、先輩後輩関係なく部員同士、非常に仲がいいことも特徴です。

昨年は、第三十三回国際高校生選抜書展(書の甲子園)にて十五名が入賞・入選し、団体の部で三年連続の東海地区優勝に輝きました。書道の魅力は本当に奥が深く、たとえこれだけ学んだとしても尽きるものではないかもしれません。その魅力を今後は多くの人に伝えていけるように頑張っていきたいと思っています。

最後になりましたが、部員、指導者ともに日々努力を重ねていきますので応援のほど宜しくお願い致します。

■高校演劇部

二〇二四年度は、十一年ぶりの全国大会出場を果たすとともに、中部大会で二年連続の最優秀賞を受賞し二年連続の全国大会出場を決めた、演劇部にとって歴史的な年でもありました。全国大会は愛知・岐阜・三重・福井・石川・富山から構成される中部日本ブロック加盟校二五〇校のうち

一校しか出られない快挙です。二年連続の全国大会出場は高田高校はおろか、中部日本ブロックでも史上初の出来事とのこと。とはいえ、全国大会でも、地に足をつけて、自分たちのお芝居が上演できればと思っています。

順に振り返って参ります。二〇二四年の七月の全国大会には「色々々々々々」という作品で出場しました。灼熱の岐阜羽島で上演し、優良賞を受賞しました。二〇二三年当初からずっと関わってきたお芝居です。ので、一抹の寂しさもありながら、このお芝居は一旦ここで区切りということになりました。

全国大会が終わると、次の大会シーズンが始まります。十月に行われた県大会で「第七十六回中部日本高等学校演劇大会 文部科学大臣賞受賞作品」という作品を上演しました。この作品は、二〇二三年十二月に「色々々々々々」という作品を石川県で行われた中部大会で上演し、文部科学大臣賞を受賞した私たちからこそできる、畏れたものとなり得たかもしれない未来について表現した作品です。県大会では三年連続最優秀賞・三重県知事賞・創作脚本賞を受賞しました。三年連続三重県知事賞は史上初の快挙であり、三年連続トリプル受賞も初です。その結果、十二月に富山県で行われた中部日本高等学校演劇大会に出場し、最優秀賞・全国高等学校演劇協議会長賞をダブル受賞しました。先にも述べたように、中部大会での二年連続最優秀賞受賞は史上初の快挙だそ



うです。今この原稿を書いていて、めまぐるしい日々だったなあ、などと思い返しています。

めまぐるしい日々は本年度も続き、全国大会と県大会に向けての準備を並行していくことになります。全国大会での上演は、七月二十六日(土)十四時十分、香川県のサンポートホール高松で行われます。観覧に関しては事前申し込みが必要になります(当日空きがあれば入れる可能性もあります)。また、七月二十日(日)十四時、白山しらさぎホールで壮行公演を行う予定です。こちらはどなたでもご覧いただけます。十月二十五日(土)二十六日(日)に三重県総合文化センター 小ホールで県大会が行われます。生徒たちはおもしろいお芝居を創ろうと試行錯誤しながら、本館五階講堂で練習しています。上演情報はホームページでも随時更新いたします。ぜひ会場までお越しくださいませ。生徒たちのご支援活動のために、物心両面のご支援賜れますとたいへんありがたいです。

■高校仏青インターアクト部

「ボランティアの本質」

Ⅲ年B組 後久 奨真

私たち仏青インターアクト部は三年生四人、二年生十六人、一年生九人の計二十九人で活動しています。主な活動内容としては本校で行う仏教行事の準備の手伝いや町内の清掃活動などのボランティア活動です。昨年度も多くの活動に参加しまし

たが、その中でも特に印象に残ったことは日本赤十字社三重県支部で開催された「キッズ献血」や本校の文化祭中に行った「一円玉募金」などです。令和七年三月二十日、三重県津市にある赤十字センターにより開催された「キッズ献血」は他校の高校生や大学生と一緒に小学生以下の子どもたちに献血の流れや雰囲気

を体験してもらうというものでした。事前に私たちは自分たちが子どもたちに対して説明する為の動画を見て勉強をしました。動画ではとても慣れた手つきで子どもたちと上手く会話をしながら献血啓発活動をしているのを見て実際にできるのかという不安が生まれました。しかし、当日参加してくださった皆さんと一緒に取り組むと、想像していたよりも気軽に来てくださった方々に話しかけることができ、年齢や初対面であることに関係なく、自然とコミュニケーションを取ることで、楽しく献血活動のお手伝いができました。また、献血体験や着ぐるみを着用しての勧誘、フォト写真など減多にできない体験をさせてもらうことができ、ボランティア活動としても貴重な時間となりました。

今まで自分自身が体験したことのないボランティアに参加することに対して不安感がないわけではありませんが、いつも少しの勇気が必要になります。ただ前を向いて一歩を踏み出してみると、そこでは今までと違う世界を見せてくれます。ボランティア活動は苦しいとか地味だというイメージが先行しがちですが、人

生における欠かすことのできない喜びや楽しさを感じさせてもらえる活動であると気づくことができるようになりました。このボランティアの本質を大切に、これからも社会のお役に立てるよう精進していきます。

■高校将棋部

四月二十六日・二十七日に行われた第六十一回全国高等学校将棋選手権大会(三重県予選において、本校将棋部は男子団体戦・女子団体戦で優勝、さらに女子個人戦では優勝と準優勝を果たし、七月二十九日から香川県で開催される全国大会への出場権を獲得しました。部員たちは全国大会での入賞を目指し、日々真剣に練習に励んでいます。

主な活動は、放課後に約二時間の練習を行うほか、年に数回、プロ棋士による指導を受ける機会もあります。男子部員は有段者が多く、互いに競い合いながら実力を高めています。実戦形式の練習を中心に、目標に向かって楽しく活動しています。今年度は多くの新入生を迎え、部員・指導者ともにさらなる高みを目指して努力を重ねていきます。今後とも将棋部の活動へのご支援をよろしくお願いいたします。

国際交流委員会

国際交流委員会 眞 岡 康 光

令和六年度の国際交流プログラムは、様々な形で行われました。

まず、四年間途絶えていたイギリス語学研修を再開しました。七月十四日から三十一日までの十八日間、ロンドンの北東約六十kmのところに位置するHockerill Anglo European Collegeを会場とする語学研修に中学三年生・五年生・高校Ⅱ年生の生徒二十七名が参加しました。コロナ禍以前はホームステイでしたが、近年ホームステイの受入家庭が激減する状況が顕著となり、今年度から寮でのステイに変更しました。寮は大学の敷地内にあり、三食すべてが寮内の食堂で提供されました。また、休日にも授業が一日中組まれているプログラムとなりました。平日に週二回ほど計四回の遠足が計画されており、ロンドン・オックスフォード・ケンブリッジなどの街で観光を楽しむ機会もありました。生徒たちは、英語力の向上だけでなく、イギリスの歴史や伝統にも触れる機会が得られ、充実した研修を受けることができました。

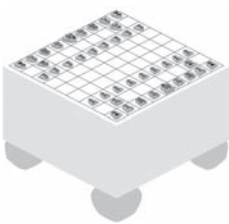
七月下旬にはオーストラリア・メルボルン近郊に位置する姉妹校セントモニカ・カレッジの生徒とのオンライン交流会が実施されました。本校生徒約四十名が参加し、日豪の文

化や学校生活について語り合う交流が生まれました。

九月にはオーストラリア交換留学の受け入れプログラムを実施しました。オーストラリアの姉妹校パレード・カレッジとセントモニカ・カレッジの生徒合わせて十五名が来校し、九月十五日から二十五日までの間、授業体験や専修寺訪問と燈炬殿の拝観、遠足として伊勢・鳥羽方面と京都での観光を楽しみました。また、休日はホームステイ先で貴重な交流や体験を行いました。受け入れていただいた生徒・保護者からは、「大変なこともあったけれど、それも経験と思って過ごしていました。本当に受け入れて良かったです。」という声も多くいただき、大きなトラブル等もなく、双方の生徒・受入家庭の保護者にとって有意義なステイになりました。

十二月には、グローバル・スタディーズ・プログラムを実施し、国内の大学に留学している学部生・大学院生を学校に招いて、約三日間ディスカッションやプレゼンテーション等の活動を行いました。英語のブラッシュアップだけでなく、今ある社会問題や国際問題を日本人目線とグローバルな視点で考察するプログラムなどで、参加生徒二十八名は意義深い活動ができました。

令和七年一月十六日に、ブラジル・サンパウロ市にある大志万学院の生徒三十一名が来校し、本校での授業を体験しました。この交流



は、大志万学院の前校長が三重県出身ということで、日本での視察旅行(五十五日間)の途中で、是非三重県の学校との交流をプログラムに含みたいとの要望から実現したものです。大志万学院の生徒は、品行方正で日本語による授業体験と生徒との交流を楽しみました。

一月下旬から三月二十九日まで、約九週間に及ぶターム留学を初めて実施しました。対象は中学三年生で、

一期生は八名の生徒を校内で選考し申請を行ったところ、Avondale College、Henderson High School、Northcote College、Cambridge High Schoolの四校から入学許可が

下りました。ターム留学は、短期の海外研修とは異なり、現地にアジャストする力やコンピテンシー能力を養成するチャレンジングな機会

です。八名の留学生は、ニュージーランドの学校生活とホームステイを通じて貴重な体験をいくつもしてき

ました。その中の一人は、「学校でわからなかったことがあった時、待っていても誰も教えてくれない。自分から

どんどん積極的に訊きまくっているようなことをできるようにしていった。」と話していました。英語力の

向上と異文化体験と共に、臆せず、何事にもトライし続けながら、壁を乗り越えていく経験をする貴重な機会となったと思います。

最後に、三月十四日から二十九日までの十六日間オーストラリア交換留学の訪豪プログラムを実施しまし

た。高校1年・2年・4年・5年計十三名がこのプログラムに参加し、姉妹校での授業体験と遠足、さらにホームステイ先での交流を楽しみました。

今後も本校では、生徒たちが世界へ目を向けるプログラムを実施し、英語力向上だけでなく、視野を広げる国際理解教育も実践していきたいと考えます。

令和6年度 国際交流教育活動

イギリス語学研修	R 6、7月14日～31日	27名参加
オンライン交流会	R 6、7月22日・23日	約40名参加
オーストラリア交換留学受入れプログラム	R 6、9月15日～25日	高校生15名参加
グローバル・スタディーズプログラム	R 6、12月19日～21日	28名参加
大志万学院(ブラジル)来校	R 7、1月16日	
ターム留学(ニュージーランド)	R 7、1月25日～3月29日	中3生8名参加
オーストラリア交換留学(訪豪)	R 7、3月15日～28日	高校生13名参加

短大だより

令和六年度の進路状況について

キャリア支援センター

樹心同窓会の皆さまには、平素より学生の就職活動にご理解、ご協力を賜り、誠にありがとうございます。令和六年度卒業生の三月末進路状況についてご報告します。

全体では、卒業生222名(昨年度236名)に対して、就職希望者212名(同229名)、就職決定者207名(同224名)、未内定者は5名(同5名)、就職率97・6%(同97・8%)となりました。また、県外への就職は4名(同5名)と減少し、県内就職率は98・1%(同97・8%)となりました。なお、進学者は1名(同2名)、家事従事・アルバイト等は9名(同5名)でした。

次に学科別の状況についてご説明します。

◇子ども学科

卒業生134名(昨年度151名)のうち、幼稚園に8名(同11名)、保育所に62名(同75名)、認定こども園に36名(同32名)、児童養護施設等に10名(同16名)、障がい

者支援施設に7名(同5名)、公務員(事務)を含む一般企業等に5名(同6名)がそれぞれ就職しました。進学が1名(同1名)、家事従事・アルバイト等が4名(同3名)で未内定はなし(同1名)、就職率は100%(同99・3%)でした。

専門職としての就職者は全体の95・3%(同95・9%)と高率です。

また、市町公務員試験でのべ25名(同23名)が保育士・幼稚園教諭職に合格し21名(同22名)が正規で、5名(同6名)が会計年度任用職員として就職しました。なお、卒業生について市町公務員試験でのべ12名が保育士・幼稚園教諭職に合格し11名が正規で就職しました。人口減少に伴う公立保育施設の廃止・統合や民営化により、公務員の募集は全体的に減少傾向にあります。

◇キャリア育成学科

オフィスワークコース

卒業生数は56名(同58名)で、卸・小売業13名(同12名)、運輸・情報通信4名(同9名)、製造8名(同7名)、金融・保険3名(同6名)、医療・福祉10名(同6名)、鉱業・建設なし(同3名)、不動産・賃貸なし(同2名)等、計48名(同51名)が一般企業等に、うち3名が公務(四日市市1名、三重県警察1名、熊本

県菊陽町1名)(同4名)に就職しました。進学者はなく、家事従事・アルバイト等は5名(同2名)、未内定は3名(同4名)で、就職率は94・1%(同92・9%)となり、昨年より増加しました。

◇キャリア育成学科

介護福祉コース

卒業生32名(同27名)で全員が就職を希望し、28名(同26名)が、老人介護施設または医療機関に、一般企業はなく(同1名)、2名が公務(松阪市民病院介護職1名、津市会計年度職員1名)(同なし)に就職し、未内定は2名(同なし)でした。就職率は93・4%(同100%)でした。本年度は障がい者支援施設への就職は3名(同なし)、また、家事従事・アルバイト等も昨年度同様ありませんでした。なお、卒業生のうち、外国人留学生は6名(同15名)でした。

求人状況については、本年度、保育所・幼稚園・児童養護施設から912人(同912人)、一般企業から760人(同760人)、福祉(老人・障害)施設から251人(同251人)の求人がありました。依然、保育関連、企業、福祉施設とも全体としては売り手市場の状況に変わりはありませんが、学生個々の

就職への意識が多様化するなか、厳しい状況にある学生は増えている印象があります。

結びに、社会に出た後輩たちを引き続き暖かく見守り、厳しくご指導賜りますようお願い申し上げます。キャリア支援センターからの報告といたします。

短大部会だより

堀内 由香里

本々の若葉の緑が、鮮やかな季節になりました。新入園児、新入学生、新社会人の方々は、緊張していた日々から少し余裕が出てきた時期ではないでしょうか。現職時代に、入園当初は頑張っていた子どもたちが、この時期になると急に泣き出した

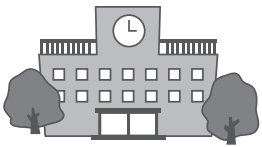
り、我がままを言ったりする姿がみられたことを思い出します。頑張っていたことで張りつめていた心の糸が少し緩んでそのような姿がみられたのでしょうか。表面的には、泣いたり、我がままを言ったり、癇癪(かんしゃく)を起したり、夜泣きをしたりする姿となるのですが、その奥にある子どもたちの思いに心を寄せながら「ずっと頑張っていたのね」「言葉にならない気持ちを思い切り出しても大丈夫だよ。分かっているからね」という思いで小さな体を抱

きしめたことを思い出します。

最近、小さな子どもたちでも、大人でも、思いは同じなのだなと感じることが多くなってきました。中高生や学生や大人も、誰か自分のことを分かってくれる人がそばにいることが大きな安心感につながり、少し困難なことや言葉に出来ない気持ちがあっても、自分の気持ちを切り替えたり、整理をしたりして、また一歩前に踏み出していくのではないかなと思っています。

様々な新しい環境でスタートした方々にとって、今年が素晴らしい一年になりますように、心から願っています。

さて、今年度の短大部会は、これまでの活動を見直して、新たな事業を模索していきたいと考えています。短大部会の役員会で今年度に話し合ったことを理事の皆さんをはじめ、会員の皆さんにお伝えできるようにしたいと思っています。今後とも、短大部会の活動に、ご理解、ご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。



祝全国大会入賞

詠み続ける日々

文芸部 神田 実咲

先輩に誘われるまま始めた歌作りではよく「言葉が綺麗なだけで内容が薄い」と評されました。高岡の大会でも短歌があまり評価されず自信をなくすこともありました。しかしそんな挫折があつてこそ、大会を通して歌の深みについて考えられたと思います。その経験が活きたのか、鳥取の大会ではやっと自分の詠み方を見つけた気がしました。

また、何より部活を通して先輩や後輩との絆が深まったことが大切な思い出です。忌憚なく意見を交わし、毎日のように集まって練習し、ふざけるとときは思い切りふざけ合ったことで文芸部が大好きになりました。仲間達、そして忙しいなかご指導くださった顧問の先生へは感謝してもきれません。

受験もありますが短歌は一生詠み続けます。特に今年の全国高校生文芸コンクールの表彰式はインフルエンザで参加できなかったもので、その悔しさを晴らすべく来年はもっといい結果で表彰されることが目標です。

「色々々々々々」年全国大会

演劇部 五年c組 安部 百花

私たち演劇部は岐阜県の不二羽鳥文化センターで行われた第七十回全国高等学校演劇大会に出場しました。上演したのは「色々々々々々」という作品です。この作品は去年の七月に行われた中南勢地区大会、県大会、中部大会を経て、全国大会で上演することができました。全国大会には中部地区加盟校二五〇校から一校しか出場することができない狭き門です。私たちは精一杯おもしろい作品を創ろうと努力してきました。

「色々々々々々」は、主人公のモモが多様性をテーマとした文化祭の準備を進める中で、周りの多様性を受け入れられず孤立するという物語です。私たちは現在多様性という言葉が謳われている中で本当の多様性とは何か考えながら劇を作ってきました。全国大会では優良賞を受賞し、悔いの残らない上演をすることができましたし、他の上演校さんと交流できあつという間の五日間でした。この経験を生かし、おもしろいお芝居を創っていきます。ありがとうございました。これからも応援をよろしく願います。

高校放送部 六年e組 峰 彩葉

この度は全国準優勝という賞をいただくことができて大変嬉しく思います。今回制作した「わたしはしる」という番組は「共生」という観点からバラ陸上を伝えるということがテーマでした。取材期間は九ヶ月にわたり、初めての長期間の撮影は大変なことが多かったですが、例えば、いつ何が起こるか分からない場所で常にカメラを回さなければならず、気が抜けない状況でした。その上、編集時に後から見直すときに膨大な時間の動画を見なければならぬ心が折れそうになりました。

苦労したことは多かったですが、仲間でお互いをカバーし合うことによつて良い作品を作ることができました。

また、今回の作品はたくさんの方との交流が不可欠でした。バラ陸上の関係者の方や、陸上部の方、家族や先生方など快く私たちの番組制作に協力していただいた方々には感謝しかありません。

しかし、惜しくも優勝できず悔しい思いもあります。来年は後輩たちにぜひ優勝してもらいリベンジを果たしてほしいです。



全日本選手権を終えて

新体操部 1 年 E 組 山本 響士朗

私は今大会に出場するにあたり、メダルを取ることを目標に練習に励んでいました。その目標を達成するために私の課題であった体力面の強化に力を入れてきました。これまでは演技を終える毎に疲労が溜まっていき、最後まで体力が持たず、全力を出し切れないことが多くありました。今大会では練習の成果もあり、最後まで体力が尽きることはなく、全力を出し切ることが出来ました。また、大学生や社会人の選手と勝負できるようにこれまでの演技よりも技の難度を高くし、今出来ること全てを取り入れた演技構成にしました。結果は個人総合七位、種目別決勝リング四位、種目別決勝ロープ五位となり、目標を達成することはできませんでした。しかしながら、失敗なくできた二種目では今までよりも評価していただき、自己最高得点を獲得することができました。こうして、全日本選手権という大きな舞台で今までよりも評価していただけたのは日頃から支えてもらっている顧問の先生方や同じチームメイトのおかげだと思っています。これからも支えてくださる全ての人への感謝の気持ちを忘れず、全日本選手権での優勝

を目標にして日々練習に励んでいきたいと思っています。

「タブレットでひろく未来」と私の未来」

中学 二年 橋 実希

この度は、高田中学生として全国大会最優秀賞という名誉をいただくことができ、大変嬉しく思います。この作品を作るきっかけは、テーマを決める話し合いで悪戦苦闘しているとき、ある部員が「今こうやってタブレットで調べているけれど、授業中だと先生の許可がないと使えないよね」と言った一言でした。

タブレットについて多くの方々に取材に協力していただくなかで、私は取材日程や質問内容の決定、機材の準備等、皆を引っ張る責任がどれほど重いか、日々痛感しました。

時折、完成させることができるのか不安になることもありましたが、「私たちなら出来る」という皆の思いがあったから、このような輝く作品が出来上がったのだと思います。

私は、この成功を取めた先輩方の背中を追って、三年生でも皆のリーダー的な存在となり、そして、この作品のように、新しく広がった未来を見つけていきたいと思っています。

ミニ同窓会

令和六年度は十二のグループでミニ同窓会が開催され、五〇七名の方々の補助金利用がございました。幹事様より集合写真や報告文などを送付していただきましたが、会報にはスペースの都合上すべてのグループのミニ同窓会を掲載できませんでしたが、謹んでお詫び申し上げます。今後も学友、恩師の方々と出会う同窓会、ミニ同窓会を応援させていただきますので、ぜひミニ同窓会を開催くださいますよう、お願い申し上げます。詳細は、高田樹心同窓会ホームページをご覧ください。

卒後五十五周年同窓会を開催しました

昭和四十五年中高六年制卒 西谷 享 一

六年制一期生の同窓会の報告です。令和元年十月に卒後五十周年同窓会を開催、その後五年経過し令和六年十月二十六日に五年ぶりに卒後五十五周年同窓会を津駅前ホテルで開催しました。卒業生三十六名、



鬼籍に入っておられる方が五名、残る三十一名のうち十七名の出席でした。卒業生のみのお会となりました。

この五年の間に新型コロナ禍に遭遇し、年齢が七十才代に突入していき中、なかなかつらい日々を送ってきましたが、特にひどい目にあった人もいないようで、このように再会できて良かったと思っています。前回は都合で欠席した方も、皆さんのなかなかの変貌ぶりに驚きの声を上げておりました。

前回の同窓会開催時に卒業生全員と連絡が取れ、連絡先などを作成することができました。その後、その資料をもとに個別に連絡を取りあい

旧交を温められた方もおり、このような同窓会活動が交友に繋がっていけばこれに勝る喜びはありません。いろいろな制約がある中で集まることが出来るのは大きな喜びですが、集まることが全てではないので、個々に繋がりを見出していくのも良いことと思います。

近況報告では、皆さん人生の終盤に差し掛かっているとはいえ、仕事を継続しておられる方、リタイアして悠々自適の方、様々な趣味で生活を楽しんでいる方、病氣とお友達の方と様々です。今後も健康に留意しつつ人生を楽しんでいきたいものです。

最後に、この五年の間に我々の後輩の中から三重県知事になる人が出ました。誠に誇らしいことと思います。六年制の伝統が年々積み重ねられいろいろな人材が世に出ていくと思っています。我々一期生として後輩の皆さまに大きな拍手を送りたいと思います。



昭和四十一年卒業生

高田中学同窓会

昭和四十一年高田中学卒

田 中 正 廣

昨日(十一

月十四日)、

津駅前の中

TEL GRE

EN PARK

にて、高田中

学昭和四十

年卒業生の同



窓会を開催しました。大倉君・戸田君・中島君に手伝っていただき、僕が代表幹事を務めました。お手伝いを願った三名に、まずお礼を申し上げます。

昭和四十一年に高田中学を卒業したのは一四五名。現在、我々が連絡先を把握しているのは一〇四名。十月一日に往復はがきで、同窓会の案内と出欠の問い合わせを行いました。参加申し込みは35名。連絡が取れる友人たちの内、1/3からもの参加申し込みがありました。当日になり病欠の申し出が二名あり、三十三名での開催となりました。とりわけ「どうしてもみんなの顔

を見たから」と困難を排し、車椅子で参加してくれた納屋内さんに感謝を申し上げます。

体調不良と言いつつ、この日の為に移住先のタイから帰国して、参加してくれた堤君の姿もあり、近況報告をお願い致しました。ありがとうございます。

また、元山形大学教授の奥山君からは、参加者全員に著書のプレゼントがありました。ありがとうございます。

準備には万全を尽くしたつもりでしたが、やはりいくつかのミスはありました。それでも、友人達から「楽



しかった。ありがとう」の言葉を受け、とても勇気付けられました。

なお、複数の友人から「なんや。お前のその坊主頭は」と揶揄されましたが、はつきり言っておきます。

「高田中学の男子生徒は、坊主頭と校則で決まっております、髪を伸ばしている君たちの方が校則違反である」と。

当日ご参加いただいた皆さんに、不可抗力で参加できなくなれた方にも、心より御礼を申し上げます。

なお、体調不良で参加できなかったと連絡を頂いた吉川君からは「傘寿記念の同窓会の幹事を引き受けてくれ」との申し入れがありました。が、①生きて居れば、②認知症でなければという条件付きならば、検討を致します。

それでは皆さん。ありがとうございます。お陰で、楽しい一日を過ごせました。

P. S. 今回、高田学苑樹心会様より補助金を受けられることになりました。遠方からの参加者のホテル代及び、DVD作成費用等に充当させていただきます。

二〇二四年十一月十五日

「第二回四樹会」

開催して

昭和四十年高校卒

幹事 豊 田 碩 康

私達は昨年「四樹会(よんじゅかい)」となづけて「ミニ同窓会」を開催いたしました。初めての取り組みで参加への呼びかけが少なかった理由により参加者は八人でした。今回も四日市在住者や以外の友人に広く呼びかけ参加者の増員に努めた結果、桑名市在住の女性に参加いただき一〇名であるが幹事として喜んでいきます(体調や他の事情で辞退者あり)。

さて、四樹会での話題は今回久しぶりに拝顔した学友が「二〇〇七年



▲最前列左端、熊野君平成21年4月27日逝去この時は世話役でした。ご冥福をお祈りします。

二月に一泊二日で伊豆修善寺温泉へ五三名が揃い有志懇親会が開催された」のが印象深い思い出であったと話していました。その他の話題は前回同様に若かりし頃の学校生活や年齢的に健康面等いつもの内容に始終しています。我々も二〇二六年には八〇歳を迎え、ある参加者から「いつまでも元気で過ごせることを願います。近場で良いからどこか温泉での一泊による同窓会を希望」との提案がありこの話題で盛り上がりました。参加者間の話は尽きなく続きましたが昨年同様に会の締めとしてこの催しは毎年開催できることを祈り再会を約束し、最後に毎年八月第一日曜日に開催する高田学苑樹心同窓会総会

への参加を促し終了いたしました。

令和六年十一月二二日

還暦&米寿で同窓会

昭和六十年高田短期大学卒

笠原美穂

高田短期大学保育科十八回生の第二回同窓会を二〇二四年十一月三十日プラザ洞津にて開催しました。卒業して四十年、還暦を迎える私たち、そして恩師の杉山先生が米寿を迎えられるので、これは一緒に祝いましょうということで計画が進みました。杉山先生をはじめ、堀先生がはるばる奈良から、中湖先生も変わらぬ笑顔で出席くださり、二十五名の同窓生が集まりました。

短大を卒業して四十年が経ちまし



たが、顔を合わせると一気に四十年前の私たちに！思い出話に花を咲かせながら、保育科ならではの手あそび「やきいもじゃんけんグーチーバー」をみんなで歌いじゃんけんの勝者二名が代表して還暦の赤いちゃんちゃんこを着用、米寿の杉山先生は金色のちゃんちゃんこを着ていただきみんなどお祝いしました。

このお祝いの会の後にもお楽しみが待っていました。なつかしい母校高田短大の見学ツアーです。先生方と一緒に四十年ぶりに校舎を歩きまわりました。新しく立派になった校舎におどろいた一方で、変わらぬ親鸞坂に安心とやすらぎを得られたのが印象的でした。

高短卒業生の絆を再認識でき、みんなの笑顔があふれた素敵な一日となり、よき還暦を迎えられたことで新たなスタートとなりました。

高田六年制同窓会

東京支部会

平成八年中学六年コース卒

八田朝尊

一一一人の参加者は学生時代の授業を思い出したかのように静かに集



中していた。壇上には来賓の宇河晴美先生。マイクを通して聞こえてくる声、口調は十年前と同じ。懐かしい話に高田の今を知れる話。笑いあり、新発見あり、涙あり。予定時間を大幅にオーバーしても、学生時代の時のように「早くチャイムならへんかな」という気持ちは全くおきなかった。

令和六年六月九日(日)に行われた六年制同窓会東京支部会。会場となった早稲田奉仕園スコットホールには懐かしい人たちの久しぶりの対面に笑顔があふれた。一期の大先輩から卒業したばかりの五十五期までが大集合。参加者のうち三割弱

が宇河先生が担任した世代で海外からこの日のために参加した人もいた。あらためて恩師の存在の大きさに気づかされ、高田の卒業生でよかったと思える時間だった。

新たに上京してきた五十五期期生のあいさつにはOB・OGから温かい拍手が送られた。歓談の時間ではたくさんさんの名刺を手にして高田の同窓生の絆を深めていた。多忙の中、三重から参加した十二期の一見勝之三重県知事の周りにも人がたくさん集まっていた。

楽しい時間はあっという間に終了。来年の再会を約束した参加者たちは、気の置けない仲間たちとの二次会、三次会へと流れていった。

高田短大 九回生ミニ同窓会

昭和五十一年高田短期大学卒業生

横山美紀子

令和六年七月二十八日、高田会館にて第三回同窓会を開催しました。

過去第一回、二回は、十月開催でしたが、「蓮の花が咲く頃に開催してほしい。」というご要望があり、七月の開催となりました。

同窓会のお知らせは、ラインや電

話を利用しましたが、都合が合わない方もありました。

会員のお孫さんたちの夏休み中であることもあり、私たちの年代もまだまだ必要とされている存在なんだな、と改めて思いました。

十一名の参加者でしたが、「濃密な話ができた良かった。」というご意見をいただき、一次会で十分満足できたので二次会は「なし」ということになりました。

ミニ同窓会という機会をいただき、ありがとうございました。

ちなみに、池に浮かぶ蓮の花は、とってもきれいに咲いていて、最高でした。



猛暑の中の開催となりましたが、まだまだ気持ちの若い皆さんのお話を伺い元気をいただきました。

昭和五十年中学三年コース卒業生 (六十五歳人生ひと区切り) 同窓会開催

昭和五十年中学三年コース卒
別 所 喜三生



令和六年八月十七日、中学卒業五十年を記念し、卒業生九十六名のうち二十五名の参加で開催されました。アットホームな雰囲気のおかげにより、先日のようによみがえってきた思い出話に花が

咲きました。一週間前の事はよく忘れるのに、人の記憶とはほんと不思議なものです。またメインとなった参加者全員の近況報告にはそれぞれ五十一年のバックボーンがあり感慨深く聞かせてもらいました。あつという間の二時間でしたが、五年後の古希同窓会を約して散会となりました。

古希を迎えて

昭和五十年高田短期大学卒
平 田 恵美子

令和六年十月二十日、高田本山専修寺高田会館本館の『和彩AKAR I』にて高田短期大学八期生の同窓会が十年ぶりに開催されました。前回の同窓会はちょうど還暦の時でした。今回も古希を迎えるという節目で七十四名の卒業生のうち、三十名参加となりました。

当日はちょうど【高短祭】開催日で午前中、数名のグループがキャンパスを訪れ、きれいになった校舎に感動したり、足早に模擬店やイベントの準備に向かう学生に五十年前の自分たちを重ね合わせ、当時のことを懐かしく思い出したりしました。また、学生の高短祭への期待に満ち



たさらにと輝く笑顔にパワーをもらい、母校を後にしました。

さて、同窓会の会場では久しぶりに見る友の顔は当時と変わらず、すぐにタイムスリップ「久しぶり！」と歓声を上げるも、すぐに名前を出てきません。名札を見てやっと名前を思い出すという始末。

学生時代の懐かしい話、現役で働いていた頃の苦労話、近頃感じる体の老化などおしゃべりに話題は尽きません。しかし、いちばんは今も保育や介護の現場で働いたり、様々なボランティア活動をしたり、ガーデニングや手芸、コーラスなどの趣味を楽しんだりなど、いろいろなこと

にチャレンジしながら生き生きと、そして一人ひとりが充実した日々を過ごしてみえることに感動したことです。なぜか新鮮な気持ちにさえなりました。

宴の途中では、自ら手を挙げ、引き受けてくださった幹事さん十名の趣味や特技を生かした歌や踊りの催しやゲームがありました。身近な材料を使った手作りのおみやげもあり、たくさんのお愛溢れる準備や計画のおかげで、時間を忘れてしまうほど楽しいひとときとなりました。

「これからもそれぞれ自分なりのペースで、私たちのテーマ『ゆったり・ゆったり・キラリ』を心に留めて過ごしていきましょう、そして五年後、また元気に会いましょう」と約束し、最後に専修寺の前での記念撮影後、名残惜しつつか散会しました。

高田中学六年コース 十八期生同窓会

昭和六十二年六年制卒
中 川 喜 美

二〇二五年一月二日(木) 四日市プラトンホテルにて、高田中学六年コース十八期生同窓会を開催しまし

た。四年に一度旧交を温めてきましたが、前はコロナ禍で見送り。やっと今年、八年ぶりに長谷川博先生・鈴木公朗先生を迎えて開催に至りました。

両先生からご挨拶と乾杯の辞をいただき、開幕。参加者の近況報告では、同級生の活躍の様子を知ることができ、誇らしさを抱くと共に、自らの励みとなりました。歓談タイムでは、目の前の同級生と語りつつも、そのそばから、在学時の記憶と今が交錯し、同窓会ならではの感覚を楽しむことができました。す



ぐに昔に戻る一方で、いつの間にかこんなに時間が経ってしまった。懐かしくも切ない愛しい時でした。残念ながら、こういう宝物のような時間はあつという間に過ぎてしまいます。名残惜しさを感じつつも、「次も元気で会おう！」と約束を交わし、(元気でが入るところが、年齢を感じます)閉会しました。

一八期生の皆さん！次回までお土産話をしっかり仕込んでおいください！次回、還暦同窓会でお会いしましょう！

高田中学校昭和五十五年卒 還暦同窓会

昭和五十五年中学三年コース卒

村 林 行 一

二〇二四年五月三日、「賢島宝生苑」において、「高田中学校昭和五十五年卒還暦同窓会」を開催しました。会場となる「賢島宝生苑」での開催にあたっては、駒田朝則さんに大変お世話になりました。また、全国各地で活躍されている同窓・同級生への連絡声かけ、企画立案、事前・当日の諸々の準備は、児玉智さん、大村健さん、出口健敬さん、中川法子さんにご尽力いただきました。



担任の望月先生は体調不良、本田保子先生は高齢のため、残念ながら欠席されましたが、総勢四十二名(丹羽篤さんはWebでの参加)の還暦人が集いました。

ユーモア溢れる児玉智さんの司会・進行のもと、田村憲久さんの挨拶、乾杯で宴はスタートしました。久しぶりに顔を合わせる面々、卒業以来、一度も会っていない同級生等、様々です。また、風貌が大きく変化した者、中学時代と変わっていない

者等、これまた様々でした。各自が近況、中学時代の思い出を一分三十秒間スピーチで報告する等、大いに盛り上がり、四十五年余の時をタイムマシーンに乗って駆け抜けました。「賢島宝生苑」さんにご用意いただいた揃いの赤い帽子とチャンチャンコで身支度を整え、記念撮影とあいなりました。最後に渥美友佳子さんの音頭で力強く締めてもらい、無事に宴は終了となりました。

これから機会があれば、みんなで会えるよう、健康に留意するように心固めました。

後でわかった事ですが、この日、本田保子先生が天に召されたのとことです。教え子たちが還暦を迎え、楽しく集ったことを確認し、安堵されたことでしょう。心よりご冥福をお祈りします。

高田高等学校

五十四期生同窓会

令和五十六年コース中学卒

岸和田 凜

令和六年度一月十二日(日)午後六時からホテルグリーンパーク津に於いて、一四九名の同窓生と、七名



の恩師を合わせた総勢一五六名の方にご参加いただき、高田中高等学校五十四期生の同窓会を開催いたしました。六年間育った高田中高等学校を卒業してから二年が経ち、二十歳の節目を機に今回初めて同窓会を開催させていただきました。

恩師の福山先生の学生時代と変わらない、ユーモアを交えながらも心温まるご挨拶と共に、乾杯の音頭

を機に宴は始まりました。久しぶりに集まった仲間たちは、学生時代と比べ、どこか大人びた表情をしていて、仲間たちの新しい一面を発見し、刺激を受けました。恩師から同窓生に向けたメッセージ、ビンゴ大会等のイベントも企画し、皆が当時に戻ったかのように笑いあい、楽しめたことに喜びを感じました。

また恩師との再会で、当時のエピソードを振り返りながら笑い合った時間とても貴重でした。学生時代には気づかなかつたけれど、先生方がいつも私たちを信じ、背中を押してくれていたからこそ、今の私たちがあのだと改めて感謝の気持ちが湧きました。

今回、二十歳という節目にこうして共に青春時代を過ごした仲間や恩師に再会できたことに感謝しつつ、次の同窓会ではさらに成長した姿で会えるよう、これからも努力を続けたいと思います。

最後は恩師の上杉先生の一本締めのもと、宴を締めくくっていただき、午後九時盛会のうちに終えることができました。皆様ありがとうございました。

会員交流会

〈高田学苑樹心同窓会 俳句大会〉

受賞作品と講評

応募人数五十名 投句数六十七句
審査委員長 山 崎 満 世

樹心同窓会大会賞

恋と夏はじけて消える微炭酸

中学三年 田中 楓斗

恋と夏が同時に弾けてしまった。
残ったのは微炭酸のわずかな舌触り。
句に勢いがあり微炭酸への転換がおもしろい。

樹心同窓会会長賞

夏過ぎて畳んだままのユニホーム

保護者 奥田えりか

猛暑のなか汗まみれになったユニホーム。畳んだままの措辞に過ぎ去った夏の時間への感慨が深まる。

学苑長賞

居残りの窓ひろびろと冬星座

卒業生 佐藤 知春

居残りという静かな少し寂しい時間。そこに思わず発見した星座が私を癒してくれる。冬の星座の煌めきに心が移りゆく。

二人のシヨ—in 高田学苑樹心同窓会総会

生涯で最も多感な時期といっても過言でない六年間を過ごした懐かしい母校を巣立つてはや二十六年。



石 崎 旭
(中高六年制・平成九年度卒業)

県下屈指の進学校で県内はもとより他県からも入学した同級生と切磋琢磨する中、当時暗記教科以外は苦手な自身としては学業不振で落ち込む事も多かったですが、素晴らしい先生方に励まされ、なによりも仏教教育で頂いたお言葉の数々はいまでも人生の指針として胸に刻まれております。そして担任の先生方はもとより勝田先生、そして「人として生きる道」を各所で説いて頂いた技術の浜田先生からは勉学以上のものを与えて頂いた事いまだ忘れる事はありません。

現在依然未熟ではございますが多気町／明和町の観光大使、三重県より三重の文化びとにも選定いただき、東海・畿内を中心に、たまには海外でも主にポップスや洋楽スタンダードの歌唱活動が続けております。歌唱活動を通じ、少しでも世の中のお役に立てればと思ひ高齢者・障がい者施設の訪問コンサートや三重県薬物乱用防止指導員の委嘱も賜り、これまで六府県の刑務所でも出演するなど、更生保護活動へのご協力も微力ながらさせて頂いております。最近殊に思わぬところで諸先輩方にご厚誼賜る事も多々あり、本当に高田パワーを随所で頂き続けております。これからも高田学苑で培われた「高田スピリッツ」を忘れる事なく益々精進して参りたいと思っております。

何卒ご指導ご鞭撻賜りますように心からお願ひ申し上げます。

■事務局だより■

〈樹心弘誓佛地〉

『顕浄土真実教行証文類』

誰も様々な分野の上に立つて人生を歩んでいます。

誰もがみな「自分をよりどころ」に生業を営んでいるのです。

しかし、この世は無常（移り変わるの）世界。

年を重ね若い時のようにいかないことも出てきます、病や思わぬ事態にさいなまれてしまうこともありま

す。
心は絶えず揺れ動き、不安やおそれ、欲望、愛憎が尽きることはなく、苦悩を抱えている身であることすら気づかないでいます。

親鸞聖人は、心を阿弥陀如来の本願（智慧・慈悲）に樹たせていただき、真実を依りどころに生きる、と本願の大地にしっかりと根をつけさせていただくこそがまことに安心して生きていくことであることを教示されていかれました。

本願の大地に樹つことは、一人一人が輝き、他を認め合うことであります。

また、それらの根は自然とつながり合い、その樹は、他のものの潤いや、安らぎ、憩いを与えていくのです。そして、木から落ちるしずくはやがて大海へと通じ、多くのいのちの育みとなっていきます。

「樹心」その大いなる中に、私も樹たせていただいています。

この度はご縁があつて事務局の任を賜り、周りの方々に助けられ、支えられつつ、ともに歩ませていただいています。ご指導のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

高田学苑樹心同窓会 事務局

山田 教尚



高田学苑
樹心同窓会HP
QRコード



令和7年度

高田学苑樹心同窓会総会

令和7年8月3日(日) 午後3時～6時

総会

ホテルグリーンパーク津

(津駅前アスト津内)

6階 中宴会場

懇親会

ホテルグリーンパーク津

(津駅前アスト津内)

6 階 大宴会場 (伊勢の間・安濃の間)

会費 3,000円



○総会・追弔会

○懇親会

○二人のショー

石崎 旭 多気町・明和観光大使 with/片桐一篤 (pf)

※お車でお越しの方はアスト駐車場をご利用下さい。
※お酒が出ます。飲まれる方はお車の参加はご遠慮下さい。

ご受賞おめでとうございます

松田直久様 (高校昭和48年卒)

旭日双光章受賞

ふるさと津かがやき寄附

「三重短期大学及び私立学校応援分」

の寄附募集の開始

令和4年4月26日より津市のふるさと納税では、ふるさと津かがやき寄附「三重短期大学及び私立学校応援分」の寄附募集が始まりました。これにより、津市以外の居住の方が津市内の短期大学及び私立学校を指定して寄附ができるようになりました。この制度を利用して高田短期大学、高田高等学校の応援をよろしくお願いいたします。寄付金につきましては、教育環境整備事業に活用させていただきます。

詳細は津市のWEBサイトをご覧ください。

津市一ふるさと津かがやき寄附（ふるさと納税）

city.tsu.mie.jp

小嶋中古倉中中岡山麻天
澤垣林田田西川田本田白
亮莉健正 博章博啓直
二沙次男哲亮代代子美齊

倉金佐野生中鷺
田森波崎駒川尾
まゆみ まさ子 睦千 昌千
ゆみ 子 巳 恵 之 代 敦

令和6年度退職教職員

報 訃

※経年のご連絡分も含みます

岡	海	小	波多	岩	牧	岡	平	若	坂	藤	源	飯	北	鈴	高	吉	奥	藤	一	駒	田
野	野	菅	野	田	野		松	菜	本	井	田	田	崎	木	嶋	田	田	田	色	田	
正			俊	喜代			憲	政	天	康	禮	泰	一	靖	真	真	嘉	千恵	俊	真	
治	守	治	一	治	清	博	吾	次	龍	弘	子	之	雄		秀	雄	美	子	晴	人	
(S15旧中)	(S20旧中)	(S20旧中)	(S20旧中)	(S22旧中)	(S23中3)	(S24専門)	(S24中3)	(S26中3)	(S29高校)	(S31高校)	(S31高校)	(S33中3)	(S33高校)	(S33高校)	(S35高校)	(S35高校)	(S36高校)	(S37高校)	(S38高校)	(S48中6)	(S58中6)

* ホームページアドレス <http://www.mie-takada-hj.ed.jp/jushin2/>

*メールアドレス office-iushin@mie-takada-hj.ed.jp

* 協力金振込口座（1口1,000円）ゆうちょ銀行 口座番号、記号 00870-1-125341 高田学苑樹心同窓会